

NEWSLETTER No.102 **TŌYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ**
 ISSN 1340-5578 The Society for Research in Asiatic Music January 31, 2018

一般社団法人 **東洋音楽学会** **会報** 第**102**号

発行 一般社団法人東洋音楽学会
 事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152
 ●E-mail: LEN03210@nifty.com ●ホームページ: http://tog.a.la9.jp

目次

| | | | |
|-----------------------------|----|-----------------------------|----|
| 第68回大会レポート…………… | 1 | ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ…………… | 12 |
| 事務局金子由美子さん勤続20周年表彰…………… | 11 | 会員異動…………… | 13 |
| 通常理事会・総会議決事項のお知らせ…………… | 11 | 図書・資料等の受贈…………… | 15 |
| 会員の受賞…………… | 11 | 新刊書籍…………… | 15 |
| 第35回田邊尚雄賞アンケートのお願い…………… | 11 | 新発売視聴覚資料…………… | 16 |
| 会費納入のお願いと大学院生会費割引のお知らせ…………… | 11 | 編集後記…………… | 17 |
| 東日本支部からのお知らせ…………… | 12 | 第6回定時社員総会議事録(抄)・添付書類…………… | 18 |
| 沖縄支部からのお知らせ…………… | 12 | | |

第68回大会レポート

(2017年11月11日～12日 沖縄県立芸術大学)

第1日(11月11日)

◇公開講演会「沖縄民謡のアーカイブ」

司会:小西潤子

宮沢和史(シンガーソングライター・

沖縄県立芸術非常勤講師)

四半世紀前の沖縄音階の《島唄》の大ヒットで知られるシンガーソングライターであり、会場校の沖縄県立芸術大学の非常勤講師でもある宮沢和史氏による、沖縄での大会の冒頭を飾るにふさわしい講演であった。氏はこの度、民謡や古典曲245曲を収録したCD-BOX『沖縄 宮古 八重山民謡大全集(1)唄方〜うたかた〜』(有)トゥクトゥク、2016)を完成・公開された。1966年生まれ・山梨県出身の氏が、友人が買ってきたマルフレコードをきっかけに沖縄民謡に魅せられ、《島唄》を作りシンガーとしての活動する一方で、プロジェクトを立ち上げ、5年かかりで形にするまでの過程が、巧みな話術で生き生きと語られた。その原動力は、沖縄民謡自体への愛情と、それらがその代表的な歌手と共に次々と失われてゆくことへの危機感にあり、2011年の東北大震災の

翌年に開始されたという。多くの歌手に「歌手自身が選んだ一曲だけを歌ってもらう」という方式は、ユニークであるが、長い間重複することがなく、たとえ同じ曲であっても全く歌い方が異なったという話にはさまざまなことを考えさせられた。

他地域とは異なる沖縄民謡の豊富さと歌手の広がり理由として、①各地の歌自慢が集まる男女の出会いの場「野遊び(むーあしび)」の存在、②宮廷に付随する遊郭・芸妓で身分の高い男性のために芸を磨く女性たちの存在、③人気ある歌謡ショーの各地巡行、④アメリカ軍提供の有線ラジオ番組「親子ラジオ」の人気、⑤心の癒し的手段としての民謡のあり方、⑥廃藩置県による上流階級の音楽の庶民への普及、⑦三線という弾き語り向きの小型楽器の存在(本土の大きな三味線は歌手と三味線弾きの分業につながった)、⑧工工四(楽譜)の存在、などがあげられ、一々納得できた。何より、沖縄における「民謡」とは、伝統音楽にとどまらず、いわゆる歌謡曲や流行歌なども含めた現在進行形の「うた」なのであり、文献が社会の勝者が残す主観的なものであるのに対し、うたには比喩などを使ってもうそのない等身大の庶民の目線や心情が投影されてきた。こういった視点は自分自身に欠けていた感があり、調査内容やスタンスに自省を求められるとともにさまざまに考えをめぐらせるきっかけをいただいた。

田中多佳子

◇公開シンポジウム「三線製作とその伝承の課題」

司会：小西潤子

パネリスト：宮沢和史、平田大一（沖縄文化芸術振興アドバイザー）、仲嶺幹（沖縄県三線製作事業協同組合）

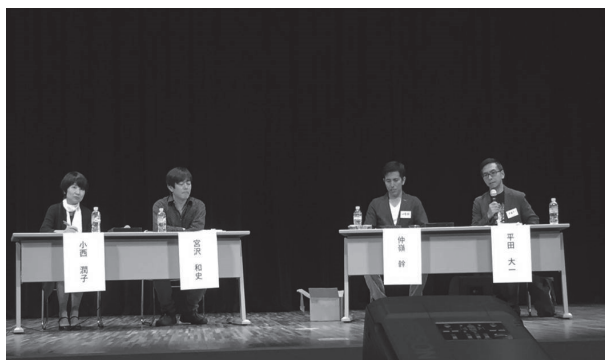
小西潤子（敬称略、以下同）が司会進行する形で、宮沢和史（1966）・平田大一（1968）・仲嶺幹（1976）が、三線製作と沖縄音楽伝承のため行っている活動について論じた。仲嶺は棹の黒木（クルチ、黒檀）の入手が困難となってきた歴史と現状を説明。持参した10年、30年、50年もの輪切り黒檀を会場に示し、100年ものでも一木から一丁しか作れない材料取得の困難さを説明。2010年、三線のブランド化、後継者の育成、販路の開拓等を目指して立ち上げた「沖縄県三線製作事業協同組合」の活動を紹介。

つぎに平田が、宮沢の「100年後の沖縄をくるちの杜でいっばいにしたい」という熱い想いに賛同して2012年、「くるちの杜100年プロジェクト in 読谷」を立ち上げ、行政、アーティスト、三線職人、演者、踊り手、ファン、地域青年部が結束する文化継承活動の取り組みを説明。国内外から多くの賛同者を得ており、入会希望者は「くるちの杜」のフェイスブックを開いて入会が可能なことを会場に呼びかけた。

思えば筆者が大学2年の1963年4月、アメリカ統治下の沖縄に音楽調査のため寝台車に乗り込んだ小泉文夫率いる楽理科の先輩15名を、東京駅ホームから見送ったことが懐かしい。小泉らは10数度の沖縄諸島への採集旅行を経て、その成果は1989～93年、『日本民謡大観』4冊に結実した。四半世紀に及ぶ小泉らの研究活動に比べ、今回紹介された宮沢らの速戦的実務的現実的活動の意気込みには目を見張るものがある。

まず、沖縄の人々が歌うウタを聞いた宮沢の感動を発端に、楽器製作の必要性、そして理想の音楽継承の実現に取り組む。黒木生育に必須の気候条件、黒木完成のための天文学的な年月などをクリアするには多くの困難が予想される。にもかかわらず、三線製作者、コーディネイター、ミュージシャンは、未来に向かって動き出した。その熱意に圧倒されるシンポジウムであった。

蒲生美津子



◇公開演奏会「琉球古典音楽—歌三線・箏曲・舞踊—」

解説：金城厚（沖縄県立芸術大学）

演奏：沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻学生、

山内昌也准教授（三線）

奏楽堂ホールにて、沖縄県立芸術大学の山内昌也准教授（音楽監修）、比嘉いずみ准教授（舞踊監修）の指導のもと、沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻の学生により、4つの琉球古典音楽が演奏された。同大学の金城厚会員より、これらの演奏が琉球王国時代の音楽の状況や、日本音楽との関連に関する試論に基づいていることが知らされた。

祝い事の始まりで踊られる祝儀舞踊「かぎやで風」によって演奏会は始まった。琉球王国時代の「かぎやで風」の雰囲気再現する試みから、通常の「かぎやで風」に比べ速い速度で演奏され、若々しさを感じられる清々しい幕開けとなった。「琉球芸能公演～鑑賞の手引き～」には「歩みの軌跡による構成図」が掲載され、《かぎやで節》の歌詞と踊り手の歩みとの関連が、金城厚会員の解説とともに分かりやすく示された。具体的には、歌詞の第1句（30拍）にて、踊り手は客席に向かって進み「行き」、第2句（34拍）からは舞台奥に「戻り」、1句ごとに「行く」「戻る」を繰り返すことを基本としつつ、踊り手の軌跡が変化していく。音楽と踊りが一体となって寿ぎの世界観が作り上げられていった。

続く《仲風節》（二揚げ・上出し）は、和歌と琉歌の韻律を折衷した形で歌われる歌曲で、歌三線と伴奏楽器（主に琉球箏など）で演奏される。今回は、『琉球人舞楽御巻物』（1832年）などの史料を基に、純音楽として歌う場合には歌三線と胡弓とを合わせていたことから、歌三線と胡弓の組み合わせで演奏された。胡弓の繊細な響きが優しく歌三線と溶け合い、柔らかな風を感じる趣で表現された。

箏曲では、生田流箏曲《六段の調》（初段～三段）と琉球箏曲《六段昔攪》（初段～三段）を続けて演奏することで、その違いを際立たせる比較演奏がなされた。「鑑賞の手引き」には各々の縦譜も掲載され、この2曲が多く共通点を持ちながらも、それぞれに違う発展をしていることが示された。

最後に踊られた琉球古典舞踊である女踊り「かせかけ」は、昔の沖縄の女性が愛する男性の旅の無事を祈って織物を織る仕草が織り込まれた踊りである。この演目も、一人で踊られる今日よく見られる形ではなく、琉球王国時代の史料にある二人踊りの形で披露され、琉球の古典芸能の往時の姿を探る演奏会となった。

小川由美



第 2 日（11 月 12 日）

◇第 34 回田邊尚雄賞授賞式・受賞祝賀会

第 34 回田邊尚雄賞は、『仏教の声の技-悟りの身体性』を執筆した大内典氏に授与された。選考委員会より、氏の研究の、視野の広さ、方法の斬新さが高く評価され、授賞が決定したとの報告があった。詳しい授賞理由は、会報 100 号 2 頁（2017 年 5 月 19 日発行）を参照。

祝賀会の司会は岡田恵美氏。参加者は約 50 名。まず澤田篤子氏が祝辞を述べた。大内氏は、もともとピアノ専攻であったが、声明の研究へと転進したこと、博士論文を英語で書いたが、練り直し日本語で出版したこと。澤田氏は以上 2 点にふれ、大内氏の研究の卓越性をたたえられた。そして、これからも海外の声明研究者と交流をふかめ、将来の声明研究をリードしてほしい、との言葉を大内氏に送られた。次に武内恵美子氏の祝辞。母校の指導教員が、自分の弟子の中では大内氏が筆頭の弟子であると語っておられたことを紹介。大内氏の研究や人柄について、身近な後輩の立場から温かく語られた。

祝辞に答えてマイクをもった大内氏は、感謝の言葉につづき、初めて沖縄に来たときの印象、つまり音楽と生活が密着していることが驚きだったことにふれられた。そして、その驚きが、ずっと研究の原動力となっていると述べ、沖縄そして会場の言祝ぎをされた。また田邊尚雄が、最初は物理学から出発したが、後に音楽の研究へとシフトしたことにもふれられ、田邊に比べれば、自分の研究はお釈迦様の掌の上の孫悟空、ますます精進したい、と述べられ、さあ泡盛を飲みましょう、と会場を盛り上げられた。

宴会の余興として、新城亘氏による歌三昧が披露された。新城氏は、沖縄の芸能における京太郎という道化役の存在について説明しつつ、自らその役を演じられた。演奏は〈扇舞〉〈万才こうし〉〈鳥刺し舞〉〈安里屋ゆんた〉〈唐船ドーイ〉。会場とのあつい掛け合い。そして最後はカチャーシー。大内氏の、土地への、学会への祝福の言葉に答えたかのように、会場全体が盛り上がった。藤田隆則

◇研究発表 1 - A（司会：高瀬澄子） 三味線を用いた協奏曲の分析的研究

—日本の伝統楽器を紹介するための手段を中心に—

発表者：コリーン・クリスティナ・シュムコー

本発表は西洋の伝統的な「協奏曲」という作曲・演奏形態のなかで独奏楽器として三味線を選択した場合、どのような特徴、問題点を持っているかについて考察した結果にもとづいている。発表者は以下の問題提起から考察を展開している。

1. 「協奏曲」という異文化の文脈における三味線の意味、
2. 作曲家は演奏家に三味線を西洋音楽的な枠組みの中でどのように表現させているのか、
3. 三味線を扱う事によりどのような問題点が生じるのか。

このなかで発表者は作曲家ルー・ハリソンの例やその他の邦人作曲家、また発表者自身の作品を引用しながら、上記の問題について考察した。その結果三味線の存在はその音の減衰の特徴などから管弦楽の音響のなかでは「アウトサイダー的存在」となる傾向があると述べた。またフロアからの質問に対して「作曲家にとって難しい素材である」と回答があった。 皆川厚一

バリのガムラン音楽の定量的分析

—ゴン・クビャールの演奏を事例に—

発表者：鈴木良枝

ガムラン・ゴン・クビャールは 20 世紀前半に成立した、バリ島のガムランのなかでは比較的新しい演奏形態であるが、現在最も普及しているガムランであるといえる。初期段階は旧貴族社会の擁護を受けた特定の演奏団体がこれを積極的に採用し、インドネシア共和国独立後は地域社会の村落共同体の活動、及び公的芸術教育機関の取り組みによって急速に普及した。

発表は、この演奏形態の 20 世紀中盤の代表曲である「オレグ・タムリリンガン」をとりあげこの曲の骨格旋律が各地域の演奏団体でどのように異なっているかを「歌詞音列間距離を用いた民謡の旋律の比較ツール（金城厚、坪井邦明開発）」

を用いて定量的に分析を試みたものである。仮説として、ギアニャール県ブリアタン村の団体が他のものとかかなり違っているという現地の定評を検証することをターゲットとした。

結果は、予想通りブリアタンの団体が他の団体と最も隔たりの大きい骨格旋律を使用している事が報告された。

皆川厚一

琉球古典音楽野村流工四における歌と三線の「ずれ」

一 二揚様式の比較考察を中心として

発表者：多和田真理

本発表は琉球古典音楽における歌と三線の「時間のずれ」が様式の違いによってどのように現れるのかを考察した結果である。考察の手段として楽譜資料『声楽譜付野村流工四』が用いられている。この楽譜中の各種指示記号を検討し三線絃音、声楽譜、歌詞を対象として分析している。その結果拍節構造、楽節の枠組み、歌と三線の時間的ずれ、が表にまとめられ考察された。結論として、歌と三線における「時間のずれ」は「様式」ごとに異なる規則性をもっていることが確認された。またフロアから本土三味線の「二上り」と三線の「二揚」の歌の音域の変化についての質問が出され、三線の二揚では指使いのポジションも上がるため、歌の音域も上がるという回答がなされた。

皆川厚一

◇研究発表1-B (司会：澤田篤子)

真言宗南山進流の明神講式から祝詞の旋律を考える

発表者：丹羽幸江

本研究は、明神講式にある祝詞読みという特殊な読み方の解明をめざす。明神講式は、全体で5段からなる。通常の講式同様、初重、二重、三重といった音楽形式で構造化されているが、最初の初重の部分は、祝詞読みの形式で唱えられているのである。先行研究によれば、祝詞読みと通常の講式との顕著なちがいは、テンポの差にある。発表者は、実際の音源の観察をふまえて、祝詞読みでは、8分音符2個のまとまりが所要所に形成されることを指摘する。言い換えれば、言葉の2音節が1単位としてまとまりを形成するリズムが生まれるのである。発表者は、そのリズムを、漢文を和文として読み下す際に生まれる固有の工夫と指摘する。新しい観点から、祝詞読みの独自性にアプローチした点が面白いが、日本語の2音節のグループ化については、これまでも多くの研究の歴史がある。それらの研究との接続が、今後の課題となる。

藤田隆則

義太夫三味線独習書『浄瑠璃三味線 ひとり稽古』の音楽的復元

発表者：太田暁子

宝暦年間に刊行された『浄瑠璃三味線 ひとり稽古』は、義太夫三味線の当時の演奏実態を知るための貴重な資料であることが知られているが、音楽内容の具体的検討は、十分には行われてこなかった。発表は『ひとり稽古』の書物としての全体像の紹介から始まった。発表の中心になったのは、発表者が現在行っている解読作業、すなわち現在の義太夫三味線演奏技術の知識を前提にした、音楽内容の解釈作業である。『ひとり稽古』に例示されている旋律型が、現行の演奏と比較の上で「共通」「部分的に相違」「ありそうではある」「音が一つ相違」などと評価・分類された。解釈にともなう問題としては、勘所図のポジションを特定の音高に移し替える困難さ、文字の横に付された記号の読解に際して生じる両義性への対処、などが具体的に指摘された。本発表は、発表者自身が遂行中の作業の中間発表であると見受けられた。解釈結果の全貌の刊行と、復元演奏が期待される。

藤田隆則

薩摩琵琶歌《本能寺》の詞章の変遷と節付けの特徴

発表者：曾村みずき

同名の作品《本能寺》が、薩摩琵琶の分派の過程で、どのように変遷していったか、詞章と節付けの両面から明らかにしようとする研究。発表者は、錦心流、錦琵琶、鶴田流それぞれの流祖の録音をもとにして《本能寺》の詞章と節付けを比較する。比較のポイントは、詞章の変化と節付けの変化との相互関係である。発表者は、錦心流から錦琵琶への変遷において、漢詩の吟詠や崩しなどの詞章がそのまま引き継がれる一方、基吟という旋律型で演奏される部分が短くなった点を指摘し、そこには節回しをより豊かに付加する意図があったと推論。錦琵琶から鶴田流への変遷では、詞章の新しい付加はなく、省略が目立つこと、最終部に漢詩の吟詠が付加された点を指摘し、音楽的な流れがより焦点化されたと推論する。分析結果は明快、推論は妥当だと思われる。今後、調査範囲を拡大、歴史的背景調査を進めることで、変遷の意図の解釈が、より豊かになることを期待したい。

藤田隆則

◇研究発表1-C

【セッション】

近代日本のラジオ放送が届けた音楽文化

発表者代表：三島わかな

発表者：酒井健太郎(非会員)、長嶺亮子、遠藤美奈

このパネルは、社団法人日本放送協会の設立(1926年)以後、JOAK(東京)、JOBK(大阪)や日本各地の放送局開局に次いで、台湾と朝鮮でも開局することによって放送事業が展開してゆくなかで、リスナーに届けられた番組から、音楽芸能に関する内容を取り上げ、戦前・戦中の放送文化を検討するものであった。

代表の三島氏によって、1935年から40年を対象として、国際交換放送、海外放送、台湾放送協会の内地向け放送の観点に着目して、放送事業の全体像とともにそれぞれの差異を把握するという主旨が提示された。

報告は、まず、酒井氏による「昭和初期の国際交換放送にみる『日本らしさ』」で、日米の交換放送を中心に多くの事例が分析され、洋楽、邦楽とともに和洋折衷形態の音楽が作曲・編曲されることで放送されていたことが示された。折衷することで新しいものを作りだそうとする動きと、1930年代日本の「自分探し」という酒井氏の表現が印象的であった。

長嶺氏による「内地向け放送にみる『台湾らしさ』とは」では、「日本でありながら『日本的でない』台湾」として、台湾音楽(台南十三音、布袋戯など)や「蕃族の音楽」などが放送された一方で、「国策によって成し遂げられた現在の台湾」として学校の児童生徒による日本語の話や合唱が放送されたことが示された。植民地台湾の二重構造が浮き彫りになる事例であった。

遠藤氏による「北米向け海外放送にみる『故郷日本』の表象」では、移民が多く居住したハワイにおける『日布時事』が取り上げられ、邦楽や宝生流の謡い方などの習い事、盆踊りなどの音楽文化が共有されていたことが示された。海外放送は在外日本人向けに提供されたもので、1933年の国際連盟脱退表明以降、日本の国際的孤立状態の裏返しとも言える様相が興味深かった。

最後に、三島氏による「琉球・沖縄はどのように表象されたか」では、JOAKやJOBK、JFAK(台北)などで放送された琉球・沖縄を題材とする番組が取り上げられ、琉球古典劇「二童敵討」、民謡めぐり第2回「琉球の巻」、府県めぐり「沖縄県の巻」などを事例として分析がなされ、田邊尚雄の言説・価値観との関係性や「内なる多様性」という新たな観点から考える道筋を得られた。

このパネルはこれまで国内放送に偏りがちであったラジオ放送の研究を、戦中・戦前にフォーカスすることで、「日本」や「台湾」、「琉球・沖縄」という概念の表象を明らかにするためのアプローチとして有効な研究へと導くものであった。各パネリストの提示する豊かな事例の内容は、短時間の発表で尽くされるものではなく、むしろ今後の展開が期待される。報告者の個人的関心だが、番組に記されている個々の音楽芸能の事例は、近代の日本・アジア音楽史の貴重な資料であるとともに、そこに記された個々の作品や芸能が、ラジオのリスナーというごく普通の人びとの中で、身近なものとして息づいていた、ということの証しとなっているように思えて、大変興味深かった。

永原恵三

◇研究発表2-A(司会:梅田英春)

田邊尚雄における沖縄・八重山諸島音楽現地調査(1922年)の成果と社会的還元

—沖縄・日本本土をめぐる(媒介者)として—

発表者:高橋美樹

田邊尚雄は当該調査終了後、講演・放送メディア・実演等をおして沖縄・八重山音楽を積極的に中央で紹介した。本発表は1941年ころまでの彼の啓蒙・実践活動の詳細を、著述や現地関係者とのコンタクト等で裏付けつつ明らかにした。沖縄との関係で問題にされたのは、山内盛彬との師弟関係、再三にわたる現地からの東京公演要請に応じえなかった点など。さらに創作においては、歌舞伎舞踊劇『与那国物語』、交響組曲『南島情調』ともに沖縄固有の要素が拭われ、「新日本音楽」の作品創出へと傾斜していった点である。質疑では、「社会的還元」とは本土、沖縄のどちらへの還元なのか、田邊における沖縄と八重山の区別、「新日本音楽」の形式とは具体的に何をさすか、などが議論された。多少とも音源を試聴できれば理解は深まったと思われる。田邊は本学会の設立者の一人で、東洋音楽研究の先駆者として知られるが、創作家としての側面にも言及した意義深い発表であった。その役割は果たして<媒介者>なのか<翻訳者>なのか、植民地主義下での田邊の沖縄認識・現地との力関係はどうであったか等、引き続き考察を深めていただきたい。

酒井正子

沖縄市のロックミュージシャンから見た米軍基地とライブハウス—90年代前後を比較して—

発表者:澤田聖也

本発表は、嘉手納基地と境を接する沖縄(旧コザ)市のロック演奏家の活動をおして、ライブハウスの変遷を明らかにしようとするものである。1)1965年(ベトナム戦争出兵)～、2)1972年(日本復帰)～、3)1995年(少女暴行事件)～の3区分ごとに演奏環境の変化が示される。1)では米兵相手の特殊な営業(ロック主体)、2)では観光客の増加(民謡や歌謡曲も演奏)、3)では2001年の同時多発テロも含む外出禁止令等の影響で米軍関係客が激減、地元民相手のライブハウス(民謡酒場含む)でも演奏するようになり、大きな変化は3)以降だとする。大状況を視野に入れた意欲的な発表であったが、ライブハウスの視点から演奏家の状況を明らかにするの逆なのか、しばしば混同が(レジュメにおいても)みられ、フロアからも表題と発表趣旨のズレが指摘された。今後は視点を明確にし議論の方向を定める必要がある。基地の動向は激動のさなかであり、さらなる調査の継続と進展に期待したい。なお『戦後コザにおける民衆生活と音楽文化』(石原ゼミ1994)を基礎文献としておすすめする。

酒井正子

1990年代以降の三線音楽へのまなざしと三線文化の変化

発表者：栗山新也

本発表は、沖縄音楽の象徴ともいえる「三線(サンシン)」に対する人々の実践を「文化」としてとらえ、その変化をみてゆく。90年代以降の沖縄文化の全国的認知(いわゆる沖縄ブーム)による県外の愛好者の増大と、沖縄の伝統音楽の再評価(人間国宝)や演奏家養成のシステムの整備(県立芸大など)が背景にある。三線の販売数は78年には年間1300丁余だったが2006年には4万丁、うち75%を海外産が占めるという数字は衝撃的だ。また「島うたポップス」を含む教則本の需要も高い。教育システムについては、修了者の若手が古典音楽の分野に参入し演奏を専業として選ぶ人も出ており、古典では画期的とされる。彼らの間で、音色のみならず形状やステイタスにこだわって三線の銘器を集める風潮があることも示された。フロアからは学校教育に邦楽の実技がとり入れられた影響等が指摘された。個々の事象については実証的で興味深い発表であったが、「三線文化」とすると範囲は広いので、総じて何を論じたいかを明確にする必要があるだろう。

酒井正子

◇研究発表2-B(司会：小塩さとみ)

1930年代に議論された作曲理論と歌唱法

一『音楽研究』(共益商社書店発行)を手がかりに

発表者：仲辻真帆

仲辻氏の発表は、1930年代に刊行された音楽雑誌『音楽研究』を読み解き、いくつかの論点に着目して考察したものであった。本雑誌について、洋楽のみならず邦楽も関心事となっており、学術的に質の高い議論が行われ、幅広い分野の専門家が読者層となっていたことなどが指摘され、当時の楽壇において貴重な存在であったことがうかがえた。続いて、プリングスハイムの日本的作曲に関する論考が他誌を巻き込んで展開された議論、作曲家の切実な問題としての歌唱における日本語の扱いに関する議論などについて詳しく検討された。本発表によって、当時の楽壇における課題にどのような人々が関心を持ち、どのように解決しようとしたのかが明らかになった。フロアからは、邦楽に関する記事、一般読者層、廃刊理由などについて質問があった。発表者はこれまでも同時代に関する研究を継続してきており、今後の研究の進展により、当時の音楽状況が総合的に明らかになることが期待される。

福田千絵

宮城道雄の自筆譜にみられる記譜の特徴

発表者：村山佳寿子

村山氏の発表は、現存する宮城道雄自筆の点字楽譜を丹念に調査し、記譜の変遷について詳細に明らかにするものであ

った。箏曲においては従来、楽器は声の高さに合わせて調弦され、楽譜は弦名で記されるのが一般的であったが、調査の結果、宮城の自筆譜においては、昭和8、9年頃に相対音高から実音への表記方法の変化、パート譜から総譜への変化があったことが明らかになった。宮城の作曲法の重要な変化を楽譜から見出すことに成功したことは、今後の箏曲研究に貴重な示唆となるであろう。また、活躍のめざましかった宮城道雄の楽譜の使用法を検討することは、個人の作曲手法を知るだけでなく、近代箏曲における作品の在り方についての考察も可能に思う。フロアからは、今回の研究対象以外の点字楽譜、相対音高から実音への変化のきっかけ、点字楽譜の普及などについて質問があった。対象外の点字楽譜にも調査の余地が残されており、継続的な調査によってさらなる成果を挙げられることを期待したい。

福田千絵

松平頼則の創作における採譜の位置づけ

発表者：竹内直

竹内氏の発表は、松平頼則が自ら採譜した「南部牛追唄」を素材として作曲した《南部民謡集》第1曲『牛追唄第一』を中心にしたものであった。第2曲以降は、武田忠一郎の採譜を素材としているが、第1曲のみ当初は松平の採譜を素材としていた。ところが、松平による採譜と武田忠一郎の採譜、松平作曲の第1曲の初版と改訂版を比較した結果、改訂版では武田の採譜の影響を受けていたことが明らかになった。フロアからは、松平が民謡の録音を聴いたのかどうか、武田の採譜を入手した経緯、同じ民謡を扱った柴田南雄との関係の有無、戦後に教育用に民謡を用いた背景などについて質問があった。発表者から、作品を抽象化するためにあえて採譜を用いたという言及があり、松平の作曲スタイルがより明確になった。教育用には、日本的な音感を育てる目的を持っていたということであった。丹念な調査の賜物と思われるが、フロアとのやり取りも含め、全体として、松平の音楽観が浮かび上がる結果となった。

福田千絵

◇研究発表3-A(司会：藤田隆則)

「我々の合唱は音楽ではない」

一実践者の語りにみる「音楽」概念と日常性一

発表者：海野のみ

本発表は発表者が研究してきた南アのグリクワの人々における「音楽」概念の独特さから議論を説き起こし、大阪の一地域に集住するミュージシャンたちが語る「音楽」「イベント」概念の独特さを示すとともに、それをグリクワの「音楽」概念と並べ、実践やコミュニティとの関係からこうした概念の様相を理解することを試みたものであった。質疑では本発表で提起された概念規定の説明や根拠を求めるものや、調査地

におけるコミュニティの現状について問う質問がなされた。

発表者からはそれぞれに対して説明が加えられたが、全体としてわかりにくかったことは否めない。これは発表者にとっても発表の趣旨を感覚的には理解しているがまだうまく言葉として捉えられていなかったことが最大の要因ではなかったろうか。今後調査を進めつつ説明の枠組みを洗練させていくことで本発表の「わかりにくさ」が解消されていけば、非常に面白い研究になるのではないかと私には感じられた。

梶丸岳

現代中国の新仏教歌曲について

発表者：彭泓

本発表は中国仏教声楽曲の歴史の変遷を踏まえつつ、民国時代以降の中国現代新仏教歌曲についてまとめ、具体例として1913年の「春遊」と2007年の「万物生」を分析したものである。質疑では、特に後者について、どのような人が好むのかや、歌手の背景や作曲意図を訊ねるもの、そして新仏教歌曲が現在どういう状況で歌われるのかなどについて質問が寄せられた。

質問が後者の事例に集中したのは、それだけ後者がポピュラー音楽的で「仏教」のイメージからかけ離れていたためであろう。確かに非常に興味深い事例であったが、「万物生」がモチーフにしているのが大乘仏教とは文化的・社会的にかなり異なるチベット仏教である点や作曲背景が大幅に異なる点で、これを「春遊」と並べて良いのかはやや疑問であった。曲が背景とする宗派ごとの違いや社会的文脈にも目を配りつつ、両者の時代の間にもどのような変遷があったのかをより緻密に跡づけることが今後の課題となるだろう。

梶丸岳

クレズマー音楽の復興プロセス

一復興者と演奏レパートリーの観点から

発表者：三代真理子

本発表はクレズマー音楽が復興し現在のように世界の音楽シーンで大きな存在感を持つに至ったプロセスを、復興者へのインタビューと文献調査、CDの分析をもとにたどった研究であった。発表後、補足でクレズマー様式自体についても説明が加えられた。質疑では復興期の前半と後半の間にギャップがあることの原因や、分析の対象外とされたCDに収録されていない楽曲の位置づけ、クレズマーの新旧の区別など、分析枠組みに対する質問がいくつかなされた。

全体として情報量がかなり多いにも関わらず非常に綺麗に整理された発表で、クレズマー音楽がどのようにして現代の様相に至ったのかわかりやすく提示されていた。ただ質疑でも多少出たように、演奏の場が分析対象から外れていた点は気になった。演奏の場や演目に関する史料を集め、復興期に

クレズマーがどのように演奏されていたのかを分析に含めていけば、さらに完成度の高い研究となることが期待される。

梶丸岳

◇研究発表3-B(司会：横井雅子)

伊勢大神楽を通して聴く瀬戸内海の島々のサウンドスケープ

発表者：神野知恵

本発表は、伊勢大神楽による芸態とそれを取りまく環境が織りなすサウンドスケープを対象としたものである。発表者がサウンドスケープを対象を設定した動機として、瀬戸内海を回壇する伊勢大神楽森本忠太夫組の調査の中で、それぞれの地域や季節に特有の音風景地域の環境が浮き彫りになることに注目したことによる。伊勢大神楽の聴覚的要素として3点をあげ、その結果として島嶼地域の地形や建物などの環境が浮き彫りになり、人々の生活、季節と音の関係などの特徴を垣間見ることができたとしている。発表者は兵庫、滋賀、京都、岡山そして瀬戸内海を回っている。これらの地区をほぼ1年間回壇している山本源太夫組などと違い瀬戸内海の島々を回壇している森本忠太夫組は8月下旬～10月中旬にしか回壇していない。この地区と時期について森本忠太夫組を設定した根拠、さらに獅子の説明でも民俗芸能としての神楽の系図についての説明が不足していた。私達の以前の調査では、伊勢大神楽の主体者と客体について明らかにしたが、この点と伊勢大神楽の芸態についても論述が必要ではなかったか。サウンドスケープとしても、全体として20分の映像をベースにした瀬戸内海の島々の紹介に終わったのは残念であった。

岩井正浩

「阿波踊り」の変容における三味線の位置づけの変遷

発表者：小林敦子

本発表は、徳島阿波踊りににおける三味線の歴史を「ぞめき」からアプローチしたもので、阿波踊りににおける三味線の重要性と低下の要因、位置づけについて主として徳島新聞、インタビューを通して明らかにしようとしたものである。低下の要因を観光政策に伴う太鼓の大音量化で三味線がかき消されたことにあるとし、その後三味線復興がはかられたが、演奏は標準化・リズム楽器化し、衰退傾向にあると決論づけている。全体的に精力的な調査・研究活動を展開していることは評価されよう。ただ、阿波踊りでは三味線のぞめき、「よしこの」とともに平均律化された「みさと笛」の導入、太棹の変遷を合せて論じることが必要である。観光化は「こぎく」などちびっこ連の存在があり、三味線も各連が同じではなく標準化と断定はできない。「よさこい祭り」を比較として対置させ、(系)として一括して論じていることには違和感がある。また高知よさこい祭りではPAだけではなく上妻をはじめ数多くの三味線奏者が地方車の上で生演奏をしている。三味線

の位置づけについては三味線や鳴り物を増加させている連、打楽器中心にしていった連、棧敷以外での「新町橋よいよい囃子」、伝承における「佐苗会」などに関するさらなる把握が必要であろう。インフォーマントや使用文献など調査、文献検索、視聴覚資料からの音楽面を含めた厳選なアプローチが望まれる。今後の研究に期待したい。 岩井正浩

イタコの唱えごとにおける伝承元について

発表者：角美弥子

本発表は、2013年に発行された映像と音声の記録集『イタコ 中村タケ』(企画・構成・監修：中山一郎)に基づくもので、中山一郎氏の2002年、2008年発表の研究の延長線上にあり、角氏は編者の一人として参画している。角氏は記録された61の唱えごとについて可能な限りその出典についての研究を行った結果、それらは神道や仏教、民俗芸能などの経文や詞章があり、仏教も宗派を問わず取り入れていることを明らかにしている。シャーマンとしてのイタコは一種の超能力者であるため厳しい資格試験があり、合格してはじめてイタコとして「口寄せ」が可能となる。1932年生れの中村タケさんが13歳からイタコの修行に入り、「口寄せ」を「商売」と表現しているのは生活の糧であるためだろう。「調査の結果」として伝承元を5つに分類し、詞章を文字起こしする時点で出典が判明したものを16点設定している。その上で唱えごとに関する宗教的背景として、仏教色が強いもの25、神道系10、いずれも同等に混在するもの30、民間宗教5、不明16としさらなる詳細な分析の必要性を述べている。まとめとしての「イタコの唱えごとは、師匠からの伝承もさることながら、役に立つことも重要であり、各イタコにも選別する権利があり、伝承にも多少の自由度があったことも考えられるだろう」は、ご高齢の中村タケさんに関する一連のイタコ研究の一環として伝承元を研究された角氏の知見であるだろう。 岩井正浩

◇研究発表3-C

[セッション]

北インド古典音楽の形成過程におけるペルシア音楽の影響に関する共同研究

発表者代表：田中多佳子

発表者：二宮文子(非会員)、井上春緒

本セッションは、基盤研究(C)「インド音楽とペルシア音楽の交流—ヒンドゥスターニー音楽の形成過程に関する研究」(2014年度～2017年度、代表研究者：田中多佳子)の報告である。サンスクリット語文献に依拠したインド音楽史学では、北インド古典音楽は西アジアとインドの文化混淆により成立したとされる。だが、その実体は解明されていない。

ペルシア語専門家とインド音楽研究者の協同による本研究は、その実証的探究の先駆的事例となった。冒頭に田中は、研究の位置付、概要と経過の報告を行い、イランでのフィールドワークの一端も写真などで提示した。

二宮はスーフィー関係文献の専門家として、13c.に書かれたペルシア語文献にはインド・ペルシア音楽の記述はほとんどないことを指摘した。また、*Nuh Sipihr*(14c.)の記述に基づき、インド音楽史では様々な音楽ジャンルや楽器を考案したとされるアミール・ホスローについて、音楽への具体的関わりは文献学的に実証できないことを示した。『アクバル会典』(*Ā'in-i Akbarī*, 16c.)については、現在まであまり関心が持たれなかった音楽関係記述にも着目し、当時の音楽実践を文献学的にたどれる可能性を示した。

井上の関心は、両文化の接触地であるカシミール地域にある。音楽書『タラーナ・イエ・スルール』(*Tarāna-i Surūr*, 18c.)の記述を点検し、インドとペルシア音楽のリズム型の影響関係を考察した。18c.には両リズム理論の融合が観察されるが、具体的なリズム記述の不足により、実際の音楽の変容を追うことはできない、と結論づけた。最後に田中は、16c.～20c.の諸文献に現れるラーガ名を比較検討した。

広範な時代と地域を対象に音楽融合の実体を解明しようとした研究のため、研究進展のためには、さらに多くの文献に当たることの必要性を実感したセッションであった。

小日向英俊

◇研究発表4-A(司会：高松晃子)

ソ連崩壊後のクルグズ共和国とカザフスタンにおけるアクトン芸

発表者：ウメトバエフ・カリマン

カザフスタン、クルグズ(キルギス)における語り芸の芸能者アクトン、そして二人のアクトンが即興的にその芸を競うアイトウシュの現状に対する報告である。かつてアクトン芸はこの地域の重要な娯楽であるとともに情報メディアでもあり、しばしば政治風刺を伴ったという。ソ連崩壊後の状況が両国のアクトン芸の継承に相違を与えている。すなわち、カザフスタンは官民双方からの潤沢な資金援助を背景に、国立芸術大学での教育、全国コンクールなどを積極的に展開するのに対して、クルグズでは主として民間からの援助に頼る現状であるという。発表中にはカザフスタンのアイトウシュ大会の様子が映像で示された。フロアとの質疑では、①アイトウシュにおける審査の基準は得意即妙な言葉のわざにある、②アクトンにとって政府の支援を受けることは悩みの種でもある(発表によれば2008年、2010年にはカザフスタンでアクトンの放送が禁止されたという)、③師匠が固定的な型を伝授してはいないが、生徒は故事やことわざの豊富な知識が要求され

る、との説明があった。本発表は中央アジアにおける語り芸の現状を知る貴重な報告であったが、語りの言語的・音楽的構造、および今日の継承制度との関連について、具体的な説明が聞きたかった。(付記:アクン芸はキルギス単独で、アイトゥシュはカザフスタン、クルグズ共通で、それぞれユネスコの無形文化遺産に登録されている)。 植村幸生

宗教舞踊と音楽の展開にみるディアスポラの文化的影響

—オーストリア・ウィーンのアレヴィーを例に—

発表者: 鈴木麻菜美

オーストリアにおけるトルコ系移民の約30%を宗教的マイノリティであるアレヴィーが占める。本発表は、オーストリアにおけるアレヴィーの宗教的、音楽的活動を、トルコ本国のそれと比較しながら考察するという意欲的な内容である。本発表では次の三点が示された。①宗教的旋回であるセマーのステージ化は本国の伝統を知らない若い世代に対してセマーへの興味を促しコミュニティ強化の機能をもつ。②初等学校における子供のジェム(儀礼)は多民族国家オーストリアが政策的に保証した活動であり、彼らのアイデンティティ形成に寄与する。③アレヴィーが音楽に従事するという伝統がオーストリアでも維持され、同国におけるトルコ音楽の継承に貢献している。質疑ではアレヴィーがおかれた都市という環境が問題となった。特にトルコ本国においても都市に移住したアレヴィーには、非アレヴィーとの通婚が見られるなど農村部と異なる状況があるという。本発表で示された事実をディアスポラと関係づけるか、都市環境への適応と見るか、より緻密な分析が求められるところであろう。全体に内容豊富な発表であったが、質疑でも言及された米山知子氏の研究などをうまく活用して議論を整理できればよかったと思う。 植村幸生

バリのムスリムの梓太鼓

—宗教的マイノリティの音楽文化—

発表者: 増野亜子

バリにおけるムスリムの音楽文化に関する現地調査の報告。発表者はルバナという梓太鼓に注目することで、その演奏伝統をもつムスリム集落ごとの独自性と相互の横断的な関係を明らかにする。発表ではまず、ルバナという楽器を論じる戦略的な枠組みが提示された。今日の民族音楽学における楽器研究の方向、とりわけ「生きられた楽器」というベイツの議論に共感を示しつつ、モノとしての楽器、人と楽器のかかわり、楽器が生む音にわたる諸要素が絡み合うウェブとして一つの楽器をとらえようとする。発表で紹介されたバリのルバナは形態(紐+くさび、紐のみ、鉦)、素材、使用されるジャンル、名称(ルバナ、クンダン、タール)において多様性に

富み、その一元的な説明は不可能だが、上記のウェブに照らしたときに、ゆるやかな「バリのムスリムの音楽文化」の枠組みが立ち現れる、と結論した。本発表は着実な民族誌的データ、明確な視点、楽器研究一般への有効な視座を含み、それらを明快にまとめあげた、すばらしい内容であった。質疑を通じて、①ムスリム以外の集落でもかつてルバナが使われたがゴングの代用であった、②バリ以外のルバナの状況は調査報告が乏しく不明である、③ルバナは多く各村落で製造されていたが現在は購入されることが多い、ただし鉦型はジャワからの移入である、等の補足情報が示された。 植村幸生

ミャンマー古典音楽の青銅ゴングの製作過程

—伝統的な技術と現代における変化—

発表者: 丸山洋司

本発表はマンダレーのゴング工房における調査の報告であり、ミャンマーのチーワインとマウンという、サインワイン合奏の中で用いられる二種類のゴングの製造過程を明らかにし、両者の音色が異なる理由を考察した。その結果、同一音高で比較したときに前者が後者よりも重量が重く、そのために前者が「はっきりとして」「輝きのある」音、後者が「くすんで」「目立たない」音になると論じた。従来の研究から、前者より後者が新しい楽器と考えられているが(Garfias 1985)、この重量の違いは、後者が後に追加されたことに由来すると主張された。また、チーワインと異なりマウンの製造では最終過程で音色の調整が行われること、調査した工房には1966年まで使われたという調律用鉄琴(タン・パッター)が現存することがわかり、その音律は古い音律とよく符合することもあわせて示された。質疑では、両楽器の音色を総重量でのみ説明することへの疑問があった。ゴングのような単一素材の楽器の音色を論じるには、形状や素材(特に成分)の詳細なデータが必要であろう。東南アジアのゴングの製作、流通の問題は、本学会の大会発表にもみられるように近年盛んな研究テーマとなっている。本研究がそうした脈絡のなかに置かれ、データと研究方法が相互に共有されることを望む。

植村幸生

◇研究発表4-B(司会: マット・ギラン)

明治期の「ものいふ器械」

—蝸管蓄音機と紙腔琴—

発表者: 松村智郁子

研究発表4-Bには、楽器に関係したタイプの異なる興味深い研究が並んだ。松村氏の発表は、明治期に親しまれた蝸管蓄音機と紙腔琴の実態を、新聞記事と現存品の調査から解明し、二つの音響機器の用途や役割を比較するものだった。1884年銀座十字屋より発売された紙腔琴と、1889年に鹿鳴

館で初試演会が行われた蠟管蓄音機とは、日本での始動が5年しか違わず、1904年の平円盤(ディスク)レコード発売後に衰退するが、その頃から病院・施設等で音楽療法的使用が始まったという点も似ている。が、両者には「無師独奏」を謳う音楽カラオケと、音楽に留まらない音声の記録再生装置「一人でものをいふ器械」という発想・用途上の相違点があった。発表は紙腔琴に比重が置かれ、発表者が把握した現存品22点・模倣品4点の製造番号と型、1894年発売の16ジャンル・302曲に上る曲譜名一覧が示され、紙腔琴の実際の音色が披露されたのも効果的だった。音楽ソフトにあたる曲譜の作成には音高・音価の確定が前提だった筈で、今後その製作手順の解明が待たれる。

塚原康子

戦前の大正琴の輸出に関する一考察

一名古屋輸出玩具工業組合の設立とその役割

発表者：梅田英春

1912年に名古屋で発明された大正琴は、その直後からアジア各地に輸出され、台湾・インド・インドネシアでは現在も使われている。インドネシアの大正琴を調査してきた梅田氏が「そもそも大正琴はなぜ輸出されたのか」という問に答えたのが本発表である。1914~18年の第一次世界大戦中に日本の玩具輸出額は4倍増となり、玩具に分類された大正琴もその中に含まれていた。1925年、海外輸出製品の質向上のため商工省が重要輸出品工業組合法を制定すると、大正琴製造業者はカルテル協定である「名古屋輸出楽器玩具工業組合」を設立し、製品検査・原材料の共同購入・事業経営統制等を行うとともに、輸出先への三カ国語併記の大正琴読本の同梱など輸出促進にも努めた。近年、ピアノ等の洋楽器でも産業史的視点に立つ新研究が出始めているが、本発表でも大正琴の輸出事情がリアルに説明された。今後、組合設立に至る業界や地方行政の動きがさらに解明されることを期待する。

塚原康子

楽器資料のフォーラム型情報ミュージアム構築の試み

発表者：福岡正太

楽器資料は、音楽研究者にとってこそ自明の重要資料だが、他の膨大な標本資料の中から探し出すことは必ずしも容易ではない。福岡氏の発表は、国立民族学博物館が進める「フォーラム型情報ミュージアム」の一つである楽器資料データベースの構築プロジェクトに関するもので、OWC(地域・民族分類)コードとOCM(文化項目分類)コードを付与して公開することにより、「楽器」資料を抽出可能にし、研究者間での情報共有と学術的活用につなげる道筋を示した。民博では、2010年の音楽展示刷新時に作成した約6000点の楽器資料DBを基礎に、さらに立田雅彦コレクション約1300点、

大西尚明コレクション75点のDB化にも着手するという。将来、全国に散在する多様な楽器コレクションが同一のシステムによってDB化され、文書資料と同様にウェブ上で膨大な情報集積とその共有化が進めば、従来不可能だった楽器研究が可能になる日も近いのでは、と期待が膨らんだ。

塚原康子

◇研究発表4-C

[セッション]

植民地台湾(1895-1945)における日本伝統音楽の実践についての考察

発表者代表：劉麟玉

発表者：徳丸吉彦、小塩さとみ、福田千絵

本セッションは科学研究費基盤研究(C)「日本伝統音楽の越境—植民地台湾における「邦楽」の伝承」(研究代表者：劉麟玉)の成果の一部を、4名の共同研究によって発表したものである。

最初に徳丸吉彦氏が、これまでの音楽関連の植民地研究について概観し、台湾総督府による社会的整備と音楽との関わりについて言及した。そして、各発表者の問題提起を総括した。

続いて、小塩さとみ氏は、『台湾邦楽界』の記事から明らかになった1930年代台湾の邦楽をめぐる状況について発表した。地域・種目別の台湾在住の師匠数、台湾で行われた邦楽の公演概要、ラジオ放送で取り上げられた邦楽の種目と放送頻度などを具体的に示した。

さらに、福田千絵氏は「三曲」に焦点を当てて、本土の音楽家、宮城道雄と吉田晴風が1920-30年代に台湾で行った5回の演奏旅行を取り上げ、新日本音楽が台湾でも演奏され、浸透していった点に触れた。

最後に劉麟玉氏が、『台湾日日新聞』の記事を参照しながら、台湾神社祭の余興の内容を紹介し、余興の中で台湾人と日本人の伝統音楽文化が共存し、台湾人も日本人も互いの音楽を認識していたと指摘した。

このように、台湾における邦楽の担い手と種目、演奏の場・形態・楽曲、ラジオ放送、台湾神社の祭りとの関わりなど、発表者はそれぞれの切り口によって、1930年代台湾における邦楽の様相を明らかにした。

フロアからは、「台湾の製糖会社はなぜ邦楽公演と関わりがあったのか」「台湾神社ではなぜ支那式の音楽を奉納しようとしたのか」「ラジオの第2放送が始まり新しい台湾音楽が生まれたが、どんなものであったか」「台湾放送協会が音楽番組を担当したのはどのような人間だったか」など、興味深い質問が出た。

一方、植民地朝鮮における「邦楽」の実態研究もすでに成果が出始めており、共通のテーマ、時期、種目などに限定し

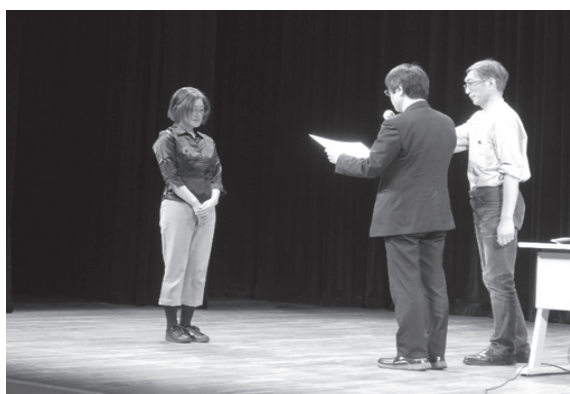
て比較研究を行えば、それぞれの植民地支配の特徴がクローズアップされるかもしれない。様々な発展の可能性を感じさせるセッションであった。 山本華子

3) 平成28年度公益目的支出計画実施報告書について

社団法人から一般社団法人への移行が完了するまで提出が義務づけられている公益目的支出計画実施報告書について平成28年度の報告書の内容が承認されました。

事務局金子由美子さん勤続20周年表彰

平素大変お世話になっている事務局の金子由美子さんが今年をもちまして、勤続20周年を迎えられました。沖縄大会の総会後に、学会を代表して会長より表彰状と記念品が贈られました。金子さん、これからもよろしくお祈りします。



通常理事会・総会議決事項のお知らせ

2017年10月1日(日)に肥後細川庭園松聲閣集会室において一般社団法人東洋音楽学会の第11回通常理事会が、2017年11月11日(土)に沖縄県立芸術大学において第6回定時社員総会が開催されました。以下にこれらの会議における議決事項のうち、特記すべきものをお知らせします。なお、定時社員総会の議決の詳細については、後掲の第6回定時社員総会議事録(抄)ならびに添付資料をご参照ください。

1) 新入会員について

理事会において、2017年4月以降に仮承認された正会員14名が、会員として正式に承認されました。

2) 参事委嘱について

総務参事として平野悠佳氏を、機関誌編集委員会参事として鈴木麻菜美氏を、田邊尚雄賞選考委員会の参事として久岡加枝氏を推薦することが承認されました。任期は、本理事会が解散する2018年に開催される総会までとなります。

会員の受賞

◇デイビッド・W・ヒューズさんが旭日小綬章を受賞

このたびの秋の叙勲により、会員のデイビッド・W・ヒューズさんが、長年「日本・英国間の文化交流及び相互理解促進に寄与」されたことに対して、平成29年11月3日付けで旭日小綬章を受賞されました。

第35回田邊尚雄賞アンケートのお願い

第35回田邊尚雄賞選考委員会では、同賞の選考にあたり、推薦情報を募集しております。アンケート締切まであと僅かとなりました。会員の業績を顕彰する貴重な機会ですので、皆さまからの積極的なアンケート送付を切望いたします。自薦のほか他薦も歓迎いたします。

選考対象：2017(平成29)年1月1日~12月31日の発行物

アンケート締切：2018(平成30)年2月2日(金)正午

記入事項：著者名、書名、発行年月日、発行所名。

なお、論文の場合は、掲載誌名、巻次、編集者名、論文頁数も記してください。推薦理由を簡潔にお書き添えていただいても構いません。

送付先：東洋音楽学会 第35回田邊尚雄賞選考委員会

(郵送) 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3

三春ビル307号

(FAX) 03-3832-5152

(電子メール) LEN03210@nifty.com

選考委員：奥山けい子(委員長)、加藤富美子、吉野雪子、

梶丸岳、寺田吉孝

会費納入のお願いと

大学院生会費割引のお知らせ

1. 会費納入のお願い

2017年9月から新しい年度(2017年度)が始まりました。

会費未納の方は、金額をお確かめの上お払込みくださいますよう、お願い申し上げます。振り込み用紙を紛失された場合は、下記学会口座宛にお振込みください。なお、本会報と入れ違いに納入された場合はどうぞご容赦ください。

正会員：8000円

学生会員(大学院生を除く)、および割引申請者：6000円

○郵便局からの払込

ゆうちょ銀行[口座番号] 00160-6-55723

[加入者名] 一般社団法人東洋音楽学会

○他金融機関からの振込

ゆうちょ銀行[支店名] 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

[当座] 0055723

2. 会費割引制度のお知らせ

本学会には、夫婦・親子割引、大学院生(博士課程・修士課程)・研究生割引の制度があります。それぞれ条件や申込方法が異なります。

学会のホームページ(<http://tog.a.la9.jp/about.html#7>)でご確認の上、お申し込みください。なお、大学院生の割引制度を受けるためには「大学院生会費減額措置願い」と学生証のコピーを、また研究生の割引制度を受けるためには、「研究生会費減額措置願い」と学生証のコピー、履歴書が必要です。次年度以降も継続して減額措置を希望する場合は、毎年、前年度末すなわち8月31日までに、「減額措置願い」を提出する必要があります。

3. 会費の滞納者へのご注意

滞納がありますと、会員の権利(研究会・大会での発表、学会の発行物の受取)が行使できないことがありますのでご注意ください。

4. 卒論・修論の発表者へのご注意

発表を機に入会された会員にも、新年度の会費納入義務が発生いたします。退会するためには退会届が必要です。その旨ご了解のうえ、会費の納入にご協力ください。

東日本支部からのお知らせ

◇定例研究会発表募集(7月例会)

2018年7月7日(土)に開催される東日本支部定例研究会での研究発表を募集しています。

発表を希望される方は、発表種別(研究発表・報告等)、発

表題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail)を明記の上、4月30日までに、東日本支部事務局あて、お申し込みください。

なお、発表希望をご提出後1週間経過しても事務局からの連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが、再度ご連絡ください。

◇「会員の声」投稿募集

東日本支部発行『東日本支部だより』には、会員の皆様からの情報を掲載する「会員の声」欄を設けています。研究会、講演会、展示会など、会員の活動に関連する情報がありましたら、東日本支部事務局あて、お知らせください。投稿方法などの詳細は、『東日本支部だより』の最終ページをご覧ください。

沖縄支部からのお知らせ

【東洋音楽学会 沖縄支部 第69回定例研究会】

●日時：2018年2月18日(日) 14:00-16:00

●場所：沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス

奏楽堂講義室(奏楽堂ホール2階)

●参加費：会員・非会員ともに無料(予約不要)

●内容：

研究発表：又吉恭平「沖縄県における獅子舞の歴史と伝承—浦添市の獅子舞を中心に—」他、研究発表1件

・沖縄支部では、以後、支部通信は原則として、ホームページ上での公開のみといたします。例会情報も、ホームページをご覧ください。

・沖縄支部では、随時、例会発表希望者を受け付けております。他支部会員の発表も、歓迎いたします。

お問い合わせは、沖縄支部事務局まで。

沖縄支部事務局：〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4

沖縄県立芸術大学音楽学部小西研究室気付

Tel/Fax: 098-882-5016

Email: konisij@okigei.ac.jp

ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ

1. 第45回 ICTM世界大会のお知らせ

日時：2019年7月11日～17日

場所：Chulalongkorn University

(チュラロンコン大学、タイ、バンコク)

テーマ

1. Transborder Flows and Movements
2. Music, Dance and Sustainable Development
3. The Globalization and Localization of Ethnomusicology and Ethnochoreology
4. Music and Dance as Language
5. Approaches to Practice-Based Research
6. New Research

発表募集要項は、2018 年 1 月発行の会報 (Bulletin of the ICTM) にて発表されます。会報は ICTM のウェブサイトから閲覧できます。

プログラム委員

- Tan Sooi Beng (委員長) - マレーシア
Keith Howard (委員長) - イギリス
Ricardo Trimillos - アメリカ
Susanne Furniss Yacoubi - フランス
Dan Bendrups - オーストラリア
寺内直子 - 日本
Irene Loutzaki - ギリシャ
Deise Lucy Montardo - ブラジル
Made Mantle Hood (大会実行委員兼任) - インドネシア
John Morgan O'Connell - イギリス
Ursula Hermetek - オーストリア

2. ICTM 研究グループ・シンポジウム

ICTM 内部では、いろいろなテーマに基づく研究グループ (Study Groups) が結成され、活発に活動しています。世界大会が隔年 (西暦の奇数年) に行われるのに対し、研究グループのシンポジウムはその間の年 (西暦の偶数年) に行われることが多いようです。来年開催されるシンポジウムを、いくつか以下にご紹介します。それぞれのシンポジウムの詳細、その他の研究グループの活動については、ICTM ウェブサイト内の Study Groups のセクションをご覧ください。

- 音楽とマイノリティ研究グループ (Music and Minorities)
音楽とジェンダー研究グループ (Music and Gender) の
ジョイント・シンポジウム
2018 年 7 月 22~31 日
University for Music and Performing Arts Vienna
(オーストリア)

- 東南アジア芸能研究グループ
(Performing Arts of Southeast Asia) シンポジウム
2018 年 7 月 16~22 日
Department of Sabah Museum, Kota Kinabalu, Sabah
(マレーシア)

- オーディオ・ビジュアル音楽民族学研究グループ・
シンポジウム
2018 年 6 月 27~30 日、リスボン (ポルトガル)

- 応用音楽民族学研究グループ (Applied Ethnomusicology)
シンポジウム
2018 年 7 月 7~10 日
Central Conservatoire of Music in Beijing (中国)

3. ICTM 担当委員 (minako.waseda@gmail.com) からのお願い

1) 一斉メールについて

東洋音楽学会員の皆様のうち ICTM 会員に対して、担当委員より不定期に ICTM に関するお知らせを一斉送信しています。現在までに一斉メールを受信されていない方、また現在 ICTM 会員でない方で、今後 ICTM に関するメール連絡を希望される場合は、担当委員までお知らせください。

2) ICTM 関連の情報提供について

ICTM 内の研究グループに所属している会員の方からの情報を募集します。お寄せいただいた情報を東洋音楽学会員に会報を通じて発信します。ご協力よろしくお願いいたします。

3) ICTM 会報 (Bulletin) 掲載記事について

東洋音楽学会は、ICTM の日本国内委員会として機能しています。国内委員会からの報告を ICTM の会報に掲載することができます。掲載を希望する報告事項 (出版物や日本で開催された国際会議の報告) やお知らせ (日本における国際学会のお知らせなど) がありましたら、担当委員までお知らせください。

会員異動

会員異動は個人情報保護のため削除しました。

- 『東方學會報』No.112 (一財)東方学会
『楽道』8,9,10,11,12月号 (公財)正派邦楽会
『義太夫節 通し狂言の復曲』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター第44回公開講座)冊子、DVD
『義太夫節の語りにおける規範と変形——地合の音楽学的研究』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究叢書2) 山田智恵子
『日本伝統音楽研究』第14号
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
『日本音楽学会会報』第101号
『音楽学』第63巻1号 日本音楽学会
『雅楽だより』第51号 雅楽協議会
『竹内道敬文庫錦絵図録目録』竹内道敬監修 国立音楽大学附属図書館編集 立命館大学アート・リサーチセンター(共同研究) 国立音楽大学
『江戸時代における尺八愛好者の記録——細川月翁文献を中心として』 小菅大徹 虚無僧研究会
『民俗芸能研究』第63号 民俗芸能学会

新刊書籍

(ゴシック体の項目は賛助会員による刊行物)

- 『愛知で知る読む日本文学史 15 講——古典 de 聖地巡礼』
中根千絵・森田貴之(編著)、三弥井書店、1,800円
『浅草演芸ホールの看板猫ジロリの落語入門』
浅草演芸ホール(監修)、河出書房新社、1,200円
『暴れ牛と神さびる熊——供犠と霊送りの民俗誌』
星野紘、国書刊行会、2,700円
『アフターミュージッキング——実践する音楽』
毛利嘉孝(編著)、東京藝術大学出版会、2,000円
『歌を掛け合う人々——東アジアの歌文化』
真下厚・他、三弥井書店、2,500円
『英訳付き ニッポンの名前図鑑 和服・伝統芸能』
市田ひろみ(監修)、淡交社、1,400円
『演奏者のためのはじめてのボディ・マッピング——演奏もカラダも生まれ変わる』ナガイカヤノ、ヤマハミュージックメディア、2,000円
『演劇研究の核心——人形浄瑠璃・歌舞伎から現代演劇』
法月敏彦、八木書店古書出版部、9,800円
『おとぎ話における音と音楽——「歌」と心理臨床の場で語られる言葉との関連から』
宮本桃英、風間書房、4,000円
『音楽指導ブック 日本伝統音楽カリキュラムと授業実践——生成の原理による音楽の授業』

◆住所・所属等に変更ありましたら事務局までご連絡ください。(機関誌別冊会員名簿とじ込みの変更届用はがき、またはE-mail等でも結構です)

◆改姓・改名のお届けには、ご希望の表記法をお書き添えください。(複数表記される場合、どちらを主な表記にするのか等)

◆事務局に登録はされても、公表を希望されない情報等がある場合には、その旨ご明記ください。

図書・資料等の受贈

(2017年8月~12月、到着順)

日本学校音楽教育実践学会(編)、音楽之友社、2,800円
『音楽教育実践学事典——学校音楽の理論と実践をつなぐ』

日本学校音楽教育実践学会(編)、音楽之友社、3,200円
『歌舞伎と革命ロシア
——一九二八年左団次一座訪ソ公演と日露演劇交流』
永田靖・上田洋子・内田健介(編)、森話社、4,800円

『近世日朝交流史料叢書 通訳酬酢』
田代和生(編著)、ゆまに書房、5,800円

『クラシック音楽の歴史』中川右介、KADOKAWA、880円

『恋と歌舞伎と女の事情』
仲野マリ、東海教育研究所、1,850円

『左官と三味線、そして能——御所西の町家』
日暮聖、績文堂出版、2,000円

『作詞家・阿久悠の軌跡
——没後10年・生誕80年完全保存版』
濱口英樹(監修)、リットーミュージック、3,200円

『三遊亭円朝と民衆世界』須田努、有志舎、5,000円

『「Jポップ」は死んだ』鳥賀陽弘道、扶桑社、800円

『植民地期台湾の映画
——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』
三澤真美恵(編)、国立台湾歴史博物館(出版協力)、
東京大学出版会、9,800円

『吹奏楽の神様 屋比久勲を見つめて
——叱らぬ先生の出会いと軌跡』
山崎正彦、スタイルノート、2,000円

『大学生が見た素顔のモンゴル』
島村一平(編)、サンライズ出版、3,200円

『旅の民俗シリーズ〈第2巻〉寿ぐ』
旅の文化研究所(編)、現代書館、2,300円

『地域文化とデジタルアーカイブ』
岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所(編)、
樹村房、2,000円

『天才作曲家 大澤壽人——駆けめぐるボストン・パリ・日本』
生島美紀子、みすず書房、5,200円

『ドビュッシーはワインを美味にするか?
——音楽の心理学』
パウエル、ジョン(著)、濱野大道(訳)、
早川書房、2,000円

『ニッポンの奇祭』小林紀晴、講談社、900円

『野村萬斎 What is 狂言? (改訂版)』
野村萬斎(著)、網本尚子(監修・解説)、桜書店、2,000円

『はじめての音楽史——古代ギリシアの音楽から
日本の現代音楽まで(決定版)』
久保田慶一・他、音楽之友社、2,000円

『バジル先生の音楽演奏と指導のためのマンガとイラストで
よくわかるアレクサンダー・テクニーク 実践編』
クリツァー、バジル、学研プラス、1,300円

『花祭』早川孝太郎、KADOKAWA、1,400円

『バルトーク 音楽のプリミティヴィズム』
太田峰夫、慶応義塾大学出版会、4,500円

『東アジアの民族と文化の変貌
——少数民族と漢族、中国と日本』
鈴木正崇、風響社、8,000円

『ファンダメンタルな楽曲分析入門』
沼野雄司、音楽之友社、2,000円

『ブリティッシュロック巡礼』加藤雅之、青弓社、2,000円

『ぼくはこんな音楽を聴いて育った』
大友良英、筑摩書房、1,600円

『HOSONO 百景——いつか夢に見た音の旅』
細野晴臣(著)、中矢俊一郎(編)、河出書房新社、750円

『マイケル・ジャクソン来日秘話——テレビ屋の友情が生ん
だ20世紀最大規模のショービジネス』
白井荘也、DU BOOKS、1,500円

『舞うひと——草刈民代×古典芸能のトップランナーたち』
草刈民代(著)、浅井佳代子(写真)、淡交社、1,800円

『祭りと神話と社から“聞こえる・見える”』
柿園聖三、東京図書出版、1,500円

『ミュージシャンが知っておくべきマネジメントの実務
——答えはマネジメント現場にある!』脇田敬(著)、
山口哲一(監修)、リットーミュージック、1,800円

『吉本せい——お笑い帝国を築いた女』
青山誠、KADOKAWA、600円

『読みなおす日本史 平家物語の女たち——大力・尼・白拍子』
細川涼一、吉川弘文館、2,200円

『琉球古典音楽 安富祖流の研究』
新城亘、新宿書房、6,000円

『ロック史』
北中正和、立東舎、900円

新発売視聴覚資料

●CD

『秋田民謡』高橋一郎、ICHI-60816、1,500円

『アコースティック・インディア』
オムニバス、WNR-22035、2,200円

『緒』志多ら、NVRC-2931、3,000円

『ウチナーラヴソング』長嶺ルーシー・石川陽子・
堀内加奈子・山城香・新垣恵・MINA、RES-298、3,000円

『輝&輝の実』輝&輝、TSKC-001、2,000円

- 『湖水音頭/長崎盆踊り』 原田直之・江島ちあき・
大下八郎・扇ひろ子、COCF-17348、1,200 円
- 『境石投げ踊り』 境石投げ踊り保存会、
EM-1171CD、2,500 円
- 『SAMURIZE』 竜馬四重奏、PCCR-00660、3,000 円
- 『静岡縣郷土唱歌』 丸山研二郎+空の灯音楽隊、
T2AUDIO-001002、3,500 円
- 『島思い〜十番勝負』 大城美佐子、UBCA-1057、2,800 円
- 『十五』 KUNI-KEN、MKSS-0001、3,000 円
- 『白鳥おどり 白鳥の拝殿踊り 石徹白民踊』
郡上白鳥、ABY-019、3,000 円
- 『せいこやいびーん コザ・てるりん祭ライブ Live』
登川誠仁、TR-001、2,500 円
- 『せめてハンカチを振って〜アルバニア南部の歌』
サズイソ、INR-7132、2,700 円
- 『高橋翠秋 胡弓の葉一月詠抄』
高橋翠秋、VZCG-8575、6,000 円
- 『沓沓/DADA Yasuko Sato 25 String Koto』
佐藤康子、KEIT-0005、2,300 円
- 『中島勝祐創作賞 第六回 宝船売り』
常磐津東蔵、VZCG-815、3,000 円
- 『「100 年前の佐原囃子」
〜毛成下座連 大正 5 年の音が甦る〜』
佐原囃子保存会、HS-20512、2,000 円
- 『わらぶき 日本のうた I』
一噌幸弘・高木潤一、TOHYOHYO-005、2,500 円

●DVD

- 『神仙調舞曲/唯是震一』 唯是震一、VZBG-56、3,500 円
- 『林洋子 薩摩琵琶弾き語り「なめとこ山の熊」』
林洋子、VZBG-57、4,500 円

編集後記

会報 102 号をお届けします。今号は沖縄大会関係記事が中心となります。沖縄大会では多くの発表があり、司会者や発表者の方々にもレポートの執筆をしていただくなど、多々ご無理をお願いいたしました。執筆者の皆様には多大なご理解・ご協力を賜り、このような充実した内容となりましたこと、心より感謝申し上げます。

なお、長きにわたり任務に当たった大久保真利子が退任し、次号より新たなメンバーが加わります。引き続き、会員の皆様のお力添えをいただきたく、よろしく願い申し上げます。

澤田篤子

第6回定時社員総会議事録(抄)・添付書類

1.日時:平成29年11月11日(土)16:35~17:30

2.場所:沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス 奏楽堂ホール

3.出席者:334名(出席55名、委任状提出207名、
書面議決72名)

〔備考〕正会員573名、定足数287名

4.議事事項と審議の経過及び結果

定款第19条により遠藤徹会長が議長となり、定足数を確認の上、開会を宣言した。次いで定款施行細則第16条により副議長を要請し、植村幸生、太田暁子、両氏が選出された後、以下の議事を開始した。

◇審議事項

第1号議案 平成28(2016)年度事業報告の件

小塩さとみ理事(総務担当)より「平成28(2016)年度事業報告」【添付書類1】について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数(書面による原案賛成を含む)の賛成を得て可決承認された。

第2号議案 平成28(2016)年度収支決算の件

高松晃子理事(経理担当)より「収支計算書」【添付書類2-1】、「収支計算書内訳表」【添付書類2-2】について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数(書面による原案賛成を含む)の賛成を得て可決承認された。

第3号議案 平成29(2017)年8月31日現在貸借対照表 および正味財産増減計算書の件

高松晃子理事より「貸借対照表」【添付書類3-1】、「貸借対照表内訳表」【添付書類3-2】、「正味財産増減計算書」【添付書類3-3】、「正味財産増減計算書内訳表」【添付書類3-4】、「附属明細書」【添付書類3-5】について説明があった。また、小柴はるみ監事より「監査報告書」【添付書類7】について説明があり、「公益目的支出計画実施報告書」も含め監査を行ったとの報告があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数(書面による原案賛成を含む)の賛成を得て可決承認された。

第4号議案 平成29(2017)年8月31日現在会員異動状況の件

小塩さとみ理事より「会員の異動状況(2016年9月1日~2017年8月31日)」【添付書類4】について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数(書面によ

る原案賛成を含む)の賛成を得て可決承認された。

第5号議案 その他

議長が議場に対して発議を促したが、その他の議案は出されなかった。

その後、小塩さとみ理事が「平成29(2017)年度事業計画」【添付資料5】について報告し、高松晃子理事(経理担当)が「平成29(2017)年度収支予算書」【添付資料6】について報告した。続いて、当学会からの派遣委員である山本華子会員より、音楽文献目録委員会(RILM)に関する活動報告があった。

次に、遠藤徹会長より、事務局員の金子由美子氏の永年勤続表彰について説明があり、1997年に着任されて以来、当学会の事務局員として勤続20年を迎え、学会に対して多大な貢献をされたことに対して、金子氏へ表彰状の授与があった。

[第6回定時社員総会 添付書類1-1]

平成28年度(2016年度)事業報告

(自平成28年(2016年)9月1日至平成29年(2017年)8月31日)

[1] 研究発表会および学術講演会の開催(定款第5条1)

(1)公開講演会の実施(定款施行細則第3条1)

- ・日時 2016年11月5日
- ・会場 放送大学東京文京学習センター
- ・課題1「学会80年の歩みを振り返る」
- 課題2「シンポジウム:東洋音楽学会と柴田南雄
—学会創立80周年と柴田南雄生誕100周年にあたり—」
- 課題3「柴田南雄作品演奏会(柴田南雄生誕100周年)」

(2)研究発表大会の実施(定款施行細則第3条2)

- ・日時 2016年11月6日
- ・会場 放送大学東京文京学習センター
- ・発表件数17件(共同発表、セッションを含む)

(3)次年度大会の準備

- ・日時 2017年11月11日、12日
- ・会場 沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス

(4)定例研究会(定款施行細則第3条3)

○東日本支部

- ・回数 6回(第93回~第98回 12・2・3・4・6・7月)
- ・会場 大正大学ほか
- ・内容 研究発表、卒業論文・修士論文・博士論文発表ほか

○西日本支部

- ・回数 3回(第274回~第276回 10・3・6月)
- ・会場 京都教育大学ほか
- ・内容 講演、実演、修士論文・博士論文発表ほか

○沖縄支部

- ・回数 3回(第66回~第68回 2・6・7月)
- ・会場 沖縄県立芸術大学ほか
- ・内容 シンポジウム、講演、レクチャーコンサートほか

[2] 学会誌および学術図書の刊行(定款第5条2)

(5)機関誌『東洋音楽研究』の刊行(定款施行細則第3条4)

○第82号の編集、刊行(2017年8月31日発行)

- ・内容 研究ノート、資料紹介、書評ほか

(6)会報の刊行

○『東洋音楽学会会報』

- ・第98号(2016年9月)、第99号(2017年1月)、
第100号(2017年5月)
- ・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、
大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

○『東日本支部だより』

- ・第42号(2016年11月)、第43号(2017年3月)、
第44号(2017年6月)

- ・内容 東日本支部定例研究会の開催案内・報告、
会員の声ほか

○『西日本支部だより』

- ・第84号(2016年9月)、第85号(2017年5月)
- ・内容 西日本支部定例研究会の開催案内・報告、
支部会員への諸通知ほか

○『沖縄支部通信』

- ・第36号(2017年8月)
- ・内容 定例研究会報告

[3] 関連学協会との連絡および協力(定款第5条3)

(7)日本学術会議への協力

○日本学術会議協力学術研究団体として協力

(8)音楽文献目録委員会への参加

○会員吉野雪子、森田都記、山本華子の3氏を委員として派遣

(9)国際伝統音楽学会(ICTM)への協力

○日本国内委員会として加盟

(10)芸術学関連学会連合への参加

○会員遠藤徹氏を委員として派遣

(11)東洋学・アジア研究連絡協議会への参加

○オブザーバーとして参加

[4] 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条4)

(12)「田邊尚雄賞」(定款施行細則第3条5)

○第33回田邊尚雄賞の授賞

・日時 2016年11月5日

・受賞者および授賞対象

Alison McQueen Tokita (時田アリソン)

Japanese Singers of Tales Ten Centuries of Performed
Narrative

(Ashgate,2015年発行)

○第34回田邊尚雄賞の選考と発表

・受賞者および授賞対象

大内典『仏教の声と技—悟りの身体—』

(法蔵館、2016年3月発行)

[5] 研究および調査(定款第5条5)

(13)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

[6] その他目的を達成するために必要な事項(定款第5条6)

(14)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

(15)独立行政法人科学技術振興機構(JST)電子アーカイブ事業への参加

(16)『東洋音楽学会創立80周年記念記録集2 例会・定例研究会篇』の編集

[第6回定時社員総会 添付資料1-2]

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |

3. 役員会等に関する事項

[1] 会議

| | 開会年月日 | 議事事項 | 会議の結果 |
|-----------|-----------|-------------------------------|-------|
| 第9回通常理事会 | 2016/10/2 | 新入会員承認の件ほか6件 | 可決 |
| 第5回定時社員総会 | 2016/11/5 | 役員選任の件ほか4件 | 可決 |
| 臨時理事会 | 2016/11/6 | 会長、副会長、常務理事の選定および理事職務分掌の件ほか5件 | 可決 |
| 第10回通常理事会 | 2017/4/2 | 新入会員承認の件ほか8件 | 可決 |

[2] 各種委員会構成 (○印は責任者)

●会報編集委員会

○澤田篤子、 大久保真利子 神野知恵、 中川優子、 増野亜子
松本民菜 安原道子 山下正美、 横山洗

●機関誌編集委員会

○横井雅子、 梅田英春、 奥中康人、 加納マリ、 竹内有一

●第34回田邊尚雄賞選考委員会

○井上貴子 奥山けい子 加藤富美子 中原ゆかり 吉野雪子

●情報委員会

○小日向英俊 岡田恵美、 佐竹悦子、 塚原健太

●80周年関連事業推進委員会

○遠藤徹、 田中多佳子、 川崎瑞穂、 比嘉舞

[3] 各種派遣委員

●音楽文献目録委員会 (R I L M)

森田都紀 山本華子 吉野雪子

●国際伝統音楽学会 (I C T M)

早稲田みな子

●藝術学関連学会連合

遠藤徹

[第6回定時社員総会 添付書類2-1]

収 支 計 算 書

平成28年9月1日から平成29年8月31日まで

(単位:円)

| 勘定科目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|--------------|-------------|-----------|-------------|-----|
| I 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| 基本財産運用収入 | 1,500 | 1,152 | 348 | |
| 基本財産利息収入 | 1,500 | 1,152 | 348 | |
| 特定資産運用収入 | 1,000 | 696 | 304 | |
| 特定資産利息収入 | 1,000 | 696 | 304 | |
| 入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 会費収入 | 4,980,000 | 4,520,000 | 460,000 | |
| 正会員会費収入 | 4,700,000 | 4,190,000 | 510,000 | |
| 賛助会員会費収入 | 100,000 | 150,000 | △ 50,000 | |
| 特別会員会費収入 | 180,000 | 180,000 | 0 | |
| 事業収入 | 1,478,000 | 1,464,500 | 13,500 | |
| 機関誌発行収入 | 420,000 | 366,000 | 54,000 | |
| 大会広告料収入 | 500,000 | 575,000 | △ 75,000 | |
| 大会参加費収入 | 290,000 | 326,500 | △ 36,500 | |
| 懇親会費収入 | 225,000 | 170,000 | 55,000 | |
| 食料費収入 | 40,000 | 27,000 | 13,000 | |
| その他事業収入 | 3,000 | 0 | 3,000 | |
| 補助金等収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 負担金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 10,500 | 1,516 | 8,984 | |
| 受取利息収入 | 500 | 16 | 484 | |
| 雑収入 | 10,000 | 1,500 | 8,500 | |
| 他会計振替額 | 1,230,000 | 962,920 | 267,080 | |
| 本部会計振替収入 | 1,230,000 | 911,788 | 318,212 | |
| 大会会計振替収入 | 0 | 51,132 | △ 51,132 | |
| 東日本支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 西日本支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 沖縄支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 7,701,000 | 6,950,784 | 750,216 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| 事業費支出 | 7,078,000 | 6,370,016 | 707,984 | |
| 給料手当支出 | 1,200,000 | 1,201,979 | △ 1,979 | |
| 臨時雇賃金支出 | 285,000 | 286,400 | △ 1,400 | |
| 法定福利厚生費支出 | 5,000 | 5,040 | △ 40 | |
| 旅費交通費支出 | 453,000 | 411,861 | 41,139 | |
| 通信運搬費支出 | 825,000 | 779,590 | 45,410 | |
| 消耗什器備品費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 消耗品費支出 | 59,000 | 31,097 | 27,903 | |
| 賃借料支出 | 800,000 | 804,597 | △ 4,597 | |
| 印刷製本費支出 | 815,000 | 620,336 | 194,664 | |
| 諸謝金支出 | 350,000 | 187,048 | 162,952 | |
| 租税公課支出 | 0 | 12,100 | △ 12,100 | |
| 負担金支出 | 190,000 | 187,000 | 3,000 | |
| 会議費支出 | 50,000 | 39,537 | 10,463 | |
| 広報普及費支出 | 310,000 | 273,788 | 36,212 | |
| 田邊尚雄賞関連費支出 | 200,000 | 234,793 | △ 34,793 | |
| 会場運営費支出 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| 機関誌作成費支出 | 850,000 | 676,193 | 173,807 | |
| 例会運営費支出 | 135,000 | 113,007 | 21,993 | |
| 懇親会費支出 | 225,000 | 150,000 | 75,000 | |
| 保険料支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 80周年関連費支出 | 200,000 | 233,279 | △ 33,279 | |
| 食料費支出(雑支出①) | 20,000 | 89,139 | △ 69,139 | |
| 慶弔費支出(雑支出②) | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 手数料支出(雑支出③) | 20,000 | 33,232 | △ 13,232 | |
| 雑支出(雑支出④) | 6,000 | 0 | 6,000 | |
| 管理費支出 | 530,000 | 540,000 | △ 10,000 | |
| 事務委託費支出 | 530,000 | 540,000 | △ 10,000 | |
| 他会計振替額 | 1,230,000 | 962,920 | 267,080 | |
| 本部会計振替額 | 0 | 51,132 | △ 51,132 | |
| 大会会計振替額 | 200,000 | 0 | 200,000 | |
| 東日本支部会計振替額 | 560,000 | 519,516 | 40,484 | |
| 西日本支部会計振替額 | 400,000 | 381,923 | 18,077 | |
| 沖縄支部会計振替額 | 70,000 | 10,349 | 59,651 | |
| 事業活動支出計 | 8,838,000 | 7,872,936 | 965,064 | |
| 法人税等の支払額 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動収支差額 | △ 1,137,000 | △ 922,152 | △ 214,848 | |
| II 投資活動収支の部 | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | |
| 基本財産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 特定基金取崩収入 | 1,140,000 | 200,000 | 940,000 | |
| 田邊尚雄賞基金取崩収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 研究推進事業基金取崩収入 | 940,000 | 0 | 940,000 | |
| 固定資産売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資有価証券売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 敷金・保証金戻収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収入計 | 1,140,000 | 200,000 | 940,000 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | |
| 基本財産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 特定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 固定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資有価証券取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 敷金・保証金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収支差額 | 1,140,000 | 200,000 | 940,000 | |
| III 財務活動収支の部 | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | |
| 借入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 基金受入収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | | | | |
| 借入金返済支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 基金返還支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| IV 予備費支出 | | | | |
| 予備費支出 | △ 3,000 | 0 | △ 3,000 | |
| 当期収支差額 | 0 | △ 722,152 | 722,152 | |
| 前期繰越収支差額 | 0 | 2,925,921 | △ 2,925,921 | |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 2,203,769 | △ 2,203,769 | |

[第6回定時社員総会 添付書類2-2]

収支計算書内訳表
平成28年9月1日から平成29年8月31日まで

(単位:円)

| 勘定科目 | 本部 | 大会会計 | 東日本支部 | 西日本支部 | 沖縄支部 | 内部取引消去 | 合計 |
|--------------|-------------|-----------|---------|---------|--------|-----------|-----------|
| I 事業活動収支の部 | | | | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | | | | |
| 基本財産運用収入 | 1,152 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,152 |
| 基本財産利息収入 | 1,152 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,152 |
| 特定資産運用収入 | 696 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 696 |
| 特定資産利息収入 | 696 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 696 |
| 入金会費収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 会費収入 | 4,520,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,520,000 |
| 正会員会費収入 | 4,190,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,190,000 |
| 賛助会員会費収入 | 150,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150,000 |
| 特別会員会費収入 | 180,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 180,000 |
| 事業収入 | 366,000 | 1,098,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,464,500 |
| 機関誌発行収入 | 366,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 366,000 |
| 大会広告料収入 | 0 | 575,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 575,000 |
| 大会参加費収入 | 0 | 326,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 326,500 |
| 懇親会費収入 | 0 | 170,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 170,000 |
| 食料費収入 | 0 | 27,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27,000 |
| その他事業収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 補助金等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 負担金収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 14 | 1,500 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1,516 |
| 受取利息収入 | 14 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 16 |
| 雑収入 | 0 | 1,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,500 |
| 他会計振替額 | 51,132 | 0 | 519,516 | 381,923 | 10,349 | △ 962,920 | 0 |
| 本部会計振替収入 | 0 | 0 | 519,516 | 381,923 | 10,349 | △ 911,788 | 0 |
| 大会会計振替収入 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 51,132 | 0 |
| 東日本支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西日本支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沖縄支部会計振替収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 事業活動収入計 | 4,938,994 | 1,100,000 | 519,517 | 381,924 | 10,349 | △ 962,920 | 5,987,864 |
| 2. 事業活動支出 | | | | | | | |
| 事業費支出 | 4,608,139 | 1,048,868 | 525,178 | 186,849 | 982 | 0 | 6,370,016 |
| 給料手当支出 | 1,201,979 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,201,979 |
| 臨時雇賃金支出 | 0 | 266,950 | 19,450 | 0 | 0 | 0 | 286,400 |
| 法定福利厚生費支出 | 5,040 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,040 |
| 旅費交通費支出 | 344,341 | 29,792 | 27,628 | 10,100 | 0 | 0 | 411,861 |
| 通信運搬費支出 | 446,131 | 27,219 | 219,596 | 85,662 | 982 | 0 | 779,590 |
| 消耗什器備品費支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 消耗品費支出 | 25,588 | 5,409 | 0 | 100 | 0 | 0 | 31,097 |
| 賃借料支出 | 804,597 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 804,597 |
| 印刷製本費支出 | 177,708 | 225,312 | 171,956 | 45,360 | 0 | 0 | 620,336 |
| 諸謝金支出 | 0 | 187,048 | 0 | 0 | 0 | 0 | 187,048 |
| 租税公課支出 | 12,100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12,100 |
| 負担金支出 | 187,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 187,000 |
| 会議費支出 | 27,281 | 0 | 12,256 | 0 | 0 | 0 | 39,537 |
| 広報普及費支出 | 253,260 | 20,528 | 0 | 0 | 0 | 0 | 273,788 |
| 田邊尚雄賞関連費支出 | 234,793 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 234,793 |
| 会場運営費支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 機関誌作成費支出 | 676,193 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 676,193 |
| 例会運営費支出 | 0 | 0 | 69,000 | 44,007 | 0 | 0 | 113,007 |
| 懇親会費支出 | 0 | 150,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150,000 |
| 保険料支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 80周年関連費支出 | 188,692 | 44,587 | 0 | 0 | 0 | 0 | 233,279 |
| 食料費支出(雑支出①) | 0 | 89,139 | 0 | 0 | 0 | 0 | 89,139 |
| 庶務費支出(雑支出②) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 手数料支出(雑支出③) | 23,436 | 2,884 | 5,292 | 1,620 | 0 | 0 | 33,232 |
| 雑支出(雑支出④) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 管理費支出 | 540,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540,000 |
| 事務委託費支出 | 540,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540,000 |
| 他会計振替額 | 911,788 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | △ 962,920 | 0 |
| 本部会計振替額 | 0 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | △ 51,132 | 0 |
| 大会会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東日本支部会計振替額 | 519,516 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 519,516 | 0 |
| 西日本支部会計振替額 | 381,923 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 381,923 | 0 |
| 沖縄支部会計振替額 | 10,349 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 10,349 | 0 |
| 事業活動支出計 | 6,059,927 | 1,100,000 | 525,178 | 186,849 | 982 | △ 962,920 | 6,910,016 |
| 法人税等の支払額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 事業活動収支差額 | △ 1,120,933 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 922,152 |
| II 投資活動収支の部 | | | | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | | | | |
| 基本財産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定基金取崩収入 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200,000 |
| 田邊尚雄賞基金取崩収入 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200,000 |
| 研究推進事業基金取崩収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産売却収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資有価証券売却収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 敷金・保証金戻収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資活動収入計 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200,000 |
| 2. 投資活動支出 | | | | | | | |
| 基本財産取得支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資有価証券取得支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 敷金・保証金支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資活動支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資活動収支差額 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200,000 |
| III 財務活動収支の部 | | | | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | | | | |
| 借入金収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基金受入収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 財務活動支出 | | | | | | | |
| 借入金返済支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基金返還支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| IV 予備費支出 | | | | | | | |
| 予備費支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期収支差額 | △ 920,933 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 722,152 |
| 前期繰越収支差額 | 2,807,709 | 0 | 40,484 | 18,077 | 59,651 | 0 | 2,925,921 |
| 次期繰越収支差額 | 1,886,776 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 2,203,769 |

[第6回定時社員総会 添付書類3-1]

貸借対照表

平成29年8月31日現在

(単位:円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 |
|---------------|----------------|----------------|---------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 2,030,342 | 2,440,987 | △ 410,645 |
| 未収金 | 1,158,000 | 847,000 | 311,000 |
| 前渡金 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 前払費用 | 0 | 188,692 | △ 188,692 |
| 流動資産合計 | 3,388,342 | 3,676,679 | △ 288,337 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 定期預金 | 5,200,000 | 5,200,000 | 0 |
| 基本財産合計 | 5,200,000 | 5,200,000 | 0 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 研究推進事業基金 | 8,199,641 | 8,199,641 | 0 |
| 田邊尚雄基金 | 1,900,000 | 2,100,000 | △ 200,000 |
| 特定資産合計 | 10,099,641 | 10,299,641 | △ 200,000 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 什器備品 | 6,098 | 8,128 | △ 2,030 |
| 書籍 | 363,500 | 363,500 | 0 |
| 差入敷金 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 電話加入権 | 4,000 | 4,000 | 0 |
| その他の固定資産合計 | 673,598 | 675,628 | △ 2,030 |
| 固定資産合計 | 15,973,239 | 16,175,269 | △ 202,030 |
| 資産合計 | 19,361,581 | 19,851,948 | △ 490,367 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 778,573 | 348,758 | 429,815 |
| 預り金 | 0 | 0 | 0 |
| 前受金 | 406,000 | 402,000 | 4,000 |
| 流動負債合計 | 1,184,573 | 750,758 | 433,815 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 固定負債合計 | 0 | 0 | 0 |
| 負債合計 | 1,184,573 | 750,758 | 433,815 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産合計 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| その他一般正味財産 | 18,177,008 | 19,101,190 | △ 924,182 |
| (うち基本財産への充当額) | (5,200,000) | (5,200,000) | (0) |
| (うち特定資産への充当額) | (10,099,641) | (10,299,641) | (△ 200,000) |
| 一般正味財産 | 18,177,008 | 19,101,190 | △ 924,182 |
| 正味財産合計 | 18,177,008 | 19,101,190 | △ 924,182 |
| 負債及び正味財産合計 | 19,361,581 | 19,851,948 | △ 490,367 |

[第6回定時社員総会 添付書類3-2]

(様式1-3)

貸借対照表内訳表

平成29年8月31日現在

(単位:円)

| 勘定科目 | 本部 | 大会会計 | 東日本支部 | 西日本支部 | 沖縄支部 | 内部取引消去 | 合計 |
|-------------------|---------------|---------|--------|---------|--------|-----------|---------------|
| I 資産の部 | | | | | | | |
| 1. 流動資産 | | | | | | | |
| 現金預金 | 1,513,349 | 200,000 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 2,030,342 |
| 未収金 | 1,158,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,158,000 |
| 前渡金 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 200,000 | 0 |
| 前払費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 流動資産合計 | 2,871,349 | 200,000 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | △ 200,000 | 3,188,342 |
| 2. 固定資産 | | | | | | | |
| (1) 基本財産 | | | | | | | |
| 定期預金 | 5,200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,200,000 |
| 基本財産合計 | 5,200,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,200,000 |
| (2) 特定資産 | | | | | | | |
| 研究推進事業基金 | 8,199,641 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8,199,641 |
| 田造尚雄基金 | 1,900,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,900,000 |
| 特定資産合計 | 10,099,641 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10,099,641 |
| (3) その他固定資産 | | | | | | | |
| 什器備品 | 6,098 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,098 |
| 書籍 | 363,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 363,500 |
| 差入敷金 | 300,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 300,000 |
| 電話加入権 | 4,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,000 |
| その他の固定資産合計 | 673,598 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 673,598 |
| 固定資産合計 | 15,973,239 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15,973,239 |
| 資産合計 | 18,844,588 | 200,000 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | △ 200,000 | 19,161,581 |
| II 負債の部 | | | | | | | |
| 1. 流動負債 | | | | | | | |
| 未払金 | 778,573 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 778,573 |
| 預り金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受金 | 206,000 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | △ 200,000 | 206,000 |
| 流動負債合計 | 984,573 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | △ 200,000 | 984,573 |
| 2. 固定負債 | | | | | | | |
| 固定負債合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 負債合計 | 984,573 | 200,000 | 0 | 0 | 0 | △ 200,000 | 984,573 |
| III 正味財産の部 | | | | | | | |
| 1. 指定正味財産 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 一般正味財産 | | | | | | | |
| その他一般正味財産 | 17,860,015 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 18,177,008 |
| (うち基本財産への充当額) | (5,200,000) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (5,200,000) |
| (うち特定資産への充当額) | (10,099,641) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (10,099,641) |
| 一般正味財産 | 17,860,015 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 18,177,008 |
| 正味財産合計 | 17,860,015 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 18,177,008 |
| 負債及び正味財産合計 | 18,844,588 | 200,000 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | △ 200,000 | 19,161,581 |

[第6回定時社員総会 添付書類3-3]

(様式2-1)

正味財産増減計算書

平成28年9月1日から平成29年8月31日まで

総合計

(単位:円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増 減 |
|---------------|------------|------------|-----------|
| I 事業活動収支の部 | | | |
| 1. 経常収支の部 | | | |
| (1) 事業活動収入 | | | |
| 基本財産運用収入 | 1,152 | 1,759 | △ 607 |
| 基本財産受取利息 | 1,152 | 1,759 | △ 607 |
| 特定資産運用益 | 696 | 1,164 | △ 468 |
| 特定資産受取利息 | 696 | 1,164 | △ 468 |
| 会費収入 | 4,520,000 | 4,772,000 | △ 252,000 |
| 正会員受取会費 | 4,190,000 | 4,442,000 | △ 252,000 |
| 賛助会員受取会費 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| 特別会員受取会費 | 180,000 | 180,000 | 0 |
| 事業収入 | 1,464,500 | 1,564,800 | △ 100,300 |
| 機関誌発行収入 | 366,000 | 390,000 | △ 24,000 |
| 大会広告料収入 | 575,000 | 490,000 | 85,000 |
| 大会参加費収入 | 326,500 | 384,000 | △ 57,500 |
| 懇親会費収入 | 170,000 | 272,000 | △ 102,000 |
| 食料費収入 | 27,000 | 28,800 | △ 1,800 |
| その他事業収入 | 0 | 0 | 0 |
| 受取補助金等 | 0 | 0 | 0 |
| 受取負担金 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 1,516 | 310 | 1,206 |
| 受取利息 | 16 | 310 | △ 294 |
| 雑収入 | 1,500 | 0 | 1,500 |
| 他会計振替額 | 962,920 | 1,285,223 | △ 322,303 |
| 本部会計振替額 | 911,788 | 812,974 | 98,814 |
| 大会会計振替額 | 51,132 | 472,249 | △ 421,117 |
| 東日本支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 西日本支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 沖縄支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 経常収益計 | 6,950,784 | 7,625,256 | △ 674,472 |
| (2) 事業活動支出 | | | |
| 事業費 | 6,372,046 | 6,180,241 | 191,805 |
| 給料手当 | 1,201,979 | 1,206,648 | △ 4,669 |
| 臨時雇賃金 | 286,400 | 102,600 | 183,800 |
| 法定福利厚生費 | 5,040 | 4,360 | 680 |
| 旅費交通費 | 411,861 | 336,334 | 75,527 |
| 通信運搬費 | 779,590 | 854,881 | △ 75,291 |
| 消耗品什器備品費 | 0 | 21,773 | △ 21,773 |
| 消耗品費 | 31,097 | 95,340 | △ 64,243 |
| 賃借料 | 804,597 | 750,219 | 54,378 |
| 印刷製本費 | 620,336 | 561,976 | 58,360 |
| 諸謝金 | 187,048 | 105,000 | 82,048 |
| 租税公課 | 12,100 | 0 | 12,100 |
| 支払負担金 | 187,000 | 187,000 | 0 |
| 会議費 | 39,537 | 9,163 | 30,374 |
| 広報普及費 | 273,788 | 174,273 | 99,515 |
| 減価償却費 | 2,030 | 2,030 | 0 |
| 田邊尚雄賞関連費 | 234,793 | 241,859 | △ 7,066 |
| 会場運営費 | 0 | 111,800 | △ 111,800 |
| 機関誌作成費 | 676,193 | 1,000,000 | △ 323,807 |
| 例会運営費 | 113,007 | 137,785 | △ 24,778 |
| 懇親会費 | 150,000 | 180,000 | △ 30,000 |
| 保険料 | 0 | 0 | 0 |
| 80周年関連費 | 233,279 | 0 | 233,279 |
| 食料費(雑費①) | 89,139 | 64,086 | 25,053 |
| 慶弔費(雑費②) | 0 | 0 | 0 |
| 手数料(雑費③) | 33,232 | 22,072 | 11,160 |
| 雑費(雑費④) | 0 | 11,042 | △ 11,042 |
| 管理費 | 540,000 | 540,000 | 0 |
| 事務委託費 | 540,000 | 540,000 | 0 |
| 他会計振替額 | 962,920 | 1,285,223 | △ 322,303 |
| 本部会計振替額 | 51,132 | 472,249 | △ 421,117 |
| 大会会計振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 東日本支部会計振替額 | 519,516 | 562,409 | △ 42,893 |
| 西日本支部会計振替額 | 381,923 | 243,123 | 138,800 |
| 沖縄支部会計振替額 | 10,349 | 7,442 | 2,907 |
| 経常費用計 | 7,874,966 | 8,005,464 | △ 130,498 |
| 評価損益調整前経常増減額 | △ 924,182 | △ 380,208 | △ 543,974 |
| 基本財産評価損益等 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価損益等 | 0 | 0 | 0 |
| 投資有価証券評価損益等 | 0 | 0 | 0 |
| 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | △ 924,182 | △ 380,208 | △ 543,974 |
| 2. 経常外収支の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産受贈益 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 0 | 3,017 | △ 3,017 |
| 固定資産減損損失 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外費用計 | 0 | 3,017 | △ 3,017 |
| 当期経常外増減額 | 0 | △ 3,017 | 3,017 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 924,182 | △ 383,225 | △ 540,957 |
| 一般正味財産増減額 | △ 924,182 | △ 383,225 | △ 540,957 |
| 一般正味財産期首残高 | 19,101,190 | 19,484,415 | △ 383,225 |
| 一般正味財産期末残高 | 18,177,008 | 19,101,190 | △ 924,182 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 受取補助金等 | 0 | 0 | 0 |
| 受取負担金 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産受贈益 | 0 | 0 | 0 |
| 基本財産評価益 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価益 | 0 | 0 | 0 |
| 基本財産評価損 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価損 | 0 | 0 | 0 |
| 一般正味財産への振替額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| III 正味財産期末残高 | | | |
| 正味財産期末残高 | 18,177,008 | 19,101,190 | △ 924,182 |

[第6回定時社員総会 添付書類3-4]
(様式2-3)

正味財産増減計算書内訳表

平成28年9月1日から平成29年8月31日まで

(単位:円)

| 勘定科目 | 本部 | 大会会計 | 東日本支部 | 西日本支部 | 沖縄支部 | 内部取引消去 | 合計 |
|---------------|-------------|-----------|---------|---------|--------|-----------|------------|
| I 事業活動収支の部 | | | | | | | |
| 1. 経常収支の部 | | | | | | | |
| (1) 事業活動収入 | | | | | | | |
| 基本財産運用用収入 | 1,152 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,152 |
| 基本財産受取利息 | 1,152 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,152 |
| 特定資産運用用益 | 696 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 696 |
| 特定資産受取利息 | 696 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 696 |
| 会費収入 | 4,520,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,520,000 |
| 正会員受取会費 | 4,190,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,190,000 |
| 賛助会員受取会費 | 150,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150,000 |
| 特別会員受取会費 | 180,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 180,000 |
| 事業収入 | 366,000 | 1,098,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,464,500 |
| 機関誌発行収入 | 366,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 366,000 |
| 大会広告料収入 | 0 | 575,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 575,000 |
| 大会参加費収入 | 0 | 326,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 326,500 |
| 懇親会費収入 | 0 | 170,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 170,000 |
| 食料費収入 | 0 | 27,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27,000 |
| その他事業収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取負担金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 14 | 1,500 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1,516 |
| 受取利息 | 14 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 16 |
| 雑収入 | 0 | 1,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,500 |
| 他会計振替額 | 51,132 | 0 | 519,516 | 381,923 | 10,349 | △ 962,920 | 0 |
| 本部会計振替額 | 0 | 0 | 519,516 | 381,923 | 10,349 | △ 911,788 | 0 |
| 大会会計振替額 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 51,132 | 0 |
| 東日本支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 西日本支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沖縄支部会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経常収益計 | 4,938,994 | 1,100,000 | 519,517 | 381,924 | 10,349 | △ 962,920 | 5,987,864 |
| (2) 事業活動支出 | | | | | | | |
| 事業費 | 4,610,169 | 1,048,868 | 525,178 | 186,849 | 982 | 0 | 6,372,046 |
| 給料手当 | 1,201,979 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,201,979 |
| 臨時雇賃金 | 0 | 266,950 | 19,450 | 0 | 0 | 0 | 286,400 |
| 法定福利厚生費 | 5,040 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,040 |
| 旅費交通費 | 344,341 | 29,792 | 27,628 | 10,100 | 0 | 0 | 411,861 |
| 通信運搬費 | 446,131 | 27,219 | 219,596 | 85,662 | 982 | 0 | 779,590 |
| 消耗品什器備品費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 消耗品費 | 25,588 | 5,409 | 0 | 100 | 0 | 0 | 31,097 |
| 賃借料 | 804,597 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 804,597 |
| 印刷製本費 | 177,708 | 225,312 | 171,956 | 45,360 | 0 | 0 | 620,336 |
| 諸謝金 | 0 | 187,048 | 0 | 0 | 0 | 0 | 187,048 |
| 租税公課 | 12,100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12,100 |
| 支払負担金 | 187,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 187,000 |
| 会議費 | 27,281 | 0 | 12,256 | 0 | 0 | 0 | 39,537 |
| 広報普及費 | 253,260 | 20,528 | 0 | 0 | 0 | 0 | 273,788 |
| 減価償却費 | 2,030 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,030 |
| 田舎高雄賞関連費 | 234,793 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 234,793 |
| 会場運営費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 機関誌作成費 | 676,193 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 676,193 |
| 例会運営費 | 0 | 0 | 69,000 | 44,007 | 0 | 0 | 113,007 |
| 懇親会費 | 0 | 150,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150,000 |
| 保険料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 80周年関連費 | 188,692 | 44,587 | 0 | 0 | 0 | 0 | 233,279 |
| 食料費(雑費①) | 0 | 89,139 | 0 | 0 | 0 | 0 | 89,139 |
| 慶弔費(雑費②) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 手数料(雑費③) | 23,436 | 2,884 | 5,292 | 1,620 | 0 | 0 | 33,232 |
| 雑費(雑費④) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 管理費 | 540,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540,000 |
| 事務委託費 | 540,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540,000 |
| 他会計振替額 | 911,788 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | △ 962,920 | 0 |
| 本部会計振替額 | 0 | 51,132 | 0 | 0 | 0 | △ 51,132 | 0 |
| 大会会計振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東日本支部会計振替額 | 519,516 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 519,516 | 0 |
| 西日本支部会計振替額 | 381,923 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 381,923 | 0 |
| 沖縄支部会計振替額 | 10,349 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 10,349 | 0 |
| 経常費用計 | 6,061,957 | 1,100,000 | 525,178 | 186,849 | 982 | △ 962,920 | 6,912,046 |
| 評価損益調整前経常増減額 | △ 1,122,963 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 924,182 |
| 基本財産評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 投資有価証券評価損益等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | △ 1,122,963 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 924,182 |
| 2. 経常外収支の部 | | | | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | | | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産受贈益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | | | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産減損損失 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 1,122,963 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 924,182 |
| 一般正味財産増減額 | △ 1,122,963 | 0 | △ 5,661 | 195,075 | 9,367 | 0 | △ 924,182 |
| 一般正味財産期首残高 | 18,982,978 | 0 | 40,484 | 18,077 | 59,651 | 0 | 19,101,190 |
| 一般正味財産期末残高 | 17,860,015 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 18,177,008 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | | | |
| 受取補助金等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取負担金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産受贈益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基本財産評価益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基本財産評価損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産評価損 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一般正味財産への振替額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| III 正味財産期末残高 | | | | | | | |
| 正味財産期末残高 | 17,860,015 | 0 | 34,823 | 213,152 | 69,018 | 0 | 18,177,008 |

[第 6 回定時社員総会 添付書類 3-5]

附 属 明 細 書

平成 28 年 9 月 1 日 から 平成 29 年 8 月 31 日 まで

1. 基本財産及び特定資産の明細

(金額単位：円)

| 区 分 | 資産の種類 | 期首帳簿価額 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末帳簿価額 |
|------|-------|------------|-------|---------|------------|
| 基本財産 | 基本財産 | 5,200,000 | 0 | 0 | 5,200,000 |
| | 基本財産計 | 5,200,000 | 0 | 0 | 5,200,000 |
| 特定資産 | 基金 | 10,299,641 | 0 | 200,000 | 10,099,641 |
| | 特定資産計 | 10,299,641 | 0 | 200,000 | 10,099,641 |

[第 6 回定時社員総会 添付書類 5]

平成 29 年度 (2017 年度) 事業計画

(自平成 29 年 (2017 年) 9 月 1 日 至平成 30 年 (2018 年) 8 月 3 日)

[1] 研究発表会および学術講演会の開催 (定款第 5 条 1)

(1) 公開講演会の実施 (定款施行細則第 3 条 1)

- ・日時 2017 年 11 月 11 日
- ・会場 沖縄県立芸術大学
- ・課題 未定

(2) 研究発表大会の実施 (定款施行細則第 3 条 2)

- ・日時 2017 年 11 月 12 日
- ・会場 沖縄県立芸術大学

(3) 次年度大会の準備

- ・日時 2018 年 10 月または 11 月
- ・会場 未定

(4) 定例研究会 (定款施行細則第 3 条 3)

○東日本支部

- ・回数 6 回 (第 99 回～第 104 回 12・2・3・4・6・7 月)
- ・会場 東京藝術大学ほか
- ・内容 研究発表、卒業論文・修士論文・博士論文発表ほか

○西日本支部

- ・回数 4 回 (第 278 回～第 281 回 12・2・5・7 月)
- ・会場 国立民族学博物館ほか
- ・内容 研究発表、記念講演、修士論文・博士論文発表ほか

○沖縄支部

- ・回数 3 回 (第 68 回～第 70 回 12・3・7 月)
- ・会場 沖縄県立芸術大学
- ・内容 研究発表ほか

[2] 学会誌および学術図書の刊行 (定款第 5 条 2)

(5) 機関誌『東洋音楽研究』の刊行 (定款施行細則第 3 条 4)

○第 83 号の編集、刊行

- ・内容 会員の論文、研究ノート、資料紹介、書評ほか

(6) 会報の刊行

○『東洋音楽学会会報』

- ・第 101 号 (2017 年 9 月)、第 102 号 (2018 年 1 月)、第 103 号 (2018 年 5 月)
- ・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

○『東日本支部だより』

- ・第 45 号 (2017 年 11 月)、第 46 号 (2018 年 3 月)、第 47 号 (2018 年 6 月)
- ・内容 東日本支部定例研究会の開催案内・報告、会員の声ほか

○『西日本支部だより』

- ・第 87 号 (2017 年 9 月)、第 88 号 (2018 年 1 月)、第 89 号 (2018 年 4 月)

- ・内容 西日本支部定例研究会の開催案内・報告、支部会員への諸通知ほか

○『沖縄支部通信』

- ・第 37 号 (2018 年 1 月)、第 38 号 (2018 年 7 月)

- ・内容 沖縄支部定例研究会の開催案内・報告

[3] 関連学協会との連絡および協力 (定款第 5 条 3)

(7) 日本学術会議への協力

○日本学術会議協力学術研究団体として協力

(8) 音楽文献目録委員会への参加

○会員三名を委員として派遣

(9) 国際伝統音楽学会 (ICTM) への協力

○日本国内委員会として加盟

(10) 芸術学関連学会連合への参加

○会員一名を委員として派遣

(11) 東洋学・アジア研究連絡協議会への参加

○オブザーバーとして参加

[4] 研究の奨励および研究業績の表彰 (定款第 5 条 4)

(12) 「田邊尚雄賞」 (定款施行細則第 3 条 5)

○第 34 回田邊尚雄賞の授賞

- ・日時 2017 年 11 月 11 日

- ・受賞者および授賞対象

大内 典『仏教の声の技：悟りの身体性』

2016 年 3 月 10 日発行、京都：法藏館、ISBN 978-4-8318-6232-7

○第 35 回田邊尚雄賞の選考と発表

(2018 年 4 月予定)

[5] 研究および調査 (定款第 5 条 5)

(13) 国内または国外における学術調査および研究

とくになし

[6] その他目的を達成するために必要な事項 (定款第 5 条 6)

(14) 東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

(15) 独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 電子アーカイブ事業への参加

(16) 学会創立 80 周年記念関連事業

[第6回定時社員総会 添付書類7]


監査報告書


一般社団法人 東洋音楽学会

会長 遠藤 徹 殿

平成29年10月 / 日

(2017年)

監事 蒲生美津子 

監事 小柴ほろみ 

私たちは、平成28年9月1日から平成29年8月31日までの平成28年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、会計帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて財務諸表等の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 平成28年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに収支計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の財産状態及び収支状況を正しく表示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書に関して監査を行った結果、正しく実施されていることを認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。

以上